

令和7年度（2025年度）実施

県民意識調査報告書

【概要版】

山 梨 県

調 査 の 概 要

1. 目 的

県民の日常生活に関する満足度、当面する主要な課題に対する意向、行政に対する期待・要望など、時代とともに変化する県民意識の動向を的確に把握し、山梨県総合計画を推進する上での参考資料とする。

2. 調査内容と項目

項目	調査内容	質問項目数	
県民生活の満足度	県民生活を9領域（健康、安全、居住環境、仕事、所得・消費、子育て・教育、文化、余暇、福祉・連帯）に区分し、各領域及び生活全般の満足度を把握する。（問1）	46	
主要な事項についての 県民の選好度	「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」を推進する上で前提となる県民の意識	豊かさ（問2） 定住意識（問3） 山梨県のよいところ（問4） 山梨県のよくないところ（問5） 不安（問6）	4
	行政の施策についての要望	行政の施策についての要望（問7）	1
	総合計画を推進する上での主要な課題や施策についての関心	地域産業（問8） 農業（問9） 林業（問10） 環境保全（問11～問12） 観光（問13） 交通政策（問14） 地域福祉（問15） 保健医療（問16） 子育て（問17） 防災・災害（問18） 安全な社会づくり（問19） 学校教育（問20） 文化・スポーツ・生涯学習（問21）	14
	公共施設整備	公共施設整備（問22）	1
	期待する山梨県の将来像	山梨県の将来像（問23）	1
	重点項目	人口減少対策（問24）	1
		生活の状況（問25～問26）	2
生活困窮（問27）		1	
ケアラー問題（問28）		1	
回答者の属性 （フェイスシート）	性別、年齢、職業、居住年数、県外居住経験、世帯構造、世帯構成	7	

3. 調査の仕様

仕様の種別	仕 様
調査区域	山梨県全域
母集団	18歳以上の県民
標本数	2,000人（令和7年4月1日現在の常住人口調査データを基本とする）
抽出方法	層化二段無作為抽出法 （全県域を4地区に分割し、200地点を各地区の母集団の大きさに応じて配分し、住民基本台帳から抽出する）
調査期間	令和7年7月19日～8月29日
調査方法	調査員による留置記入依頼法・オンライン調査 併用
調査機関	設計・分析 公益財団法人山梨総合研究所

4. 回収結果

有効回収標本数 1,447 （回収率 72.4%）
（紙回収：807件（55.8%）、WEB回収：640件（44.2%））

5. 地域区分

地域名	構成する市町村名（数）	
中北	峡中	甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町（4市1町）
	峡北	韮崎市、北杜市（2市）
峡東	山梨市、笛吹市、甲州市（3市）	
峡南	市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町（5町）	
富士・東部	富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小菅村、丹波山村（4市2町6村）	

※ 各地域県民センターの管轄地域を基本に、過去との比較分析を考慮し区分している。

6. 回収状況（地域別）

地域名	地点数	標本数	回収数	回収率（%）	
中北	峡中	97	970	680	70.1
	峡北	18	180	137	76.1
峡東	31	310	224	72.3	
峡南	11	110	81	73.6	
富士・東部	43	430	325	75.6	
総合計	200	2,000	1,447	72.4	

7. 回答者の属性

属性区分	回答者数 (人)	割合 (%)
総数	1,447	100.0
【性別】		
男性	685	47.3
女性	734	50.7
その他・無回答	28	1.9
【年齢層別】		
18～19歳	10	0.7
20～29歳	165	11.4
30～39歳	205	14.2
40～49歳	254	17.6
50～59歳	290	20.0
60～69歳	256	17.7
70歳以上	266	18.4
無回答	1	0.1
【職業別】		
農林水産業	48	3.3
商工・サービス業	213	14.7
自由業	34	2.3
会社・商店・工場等勤務	452	31.2
官公庁・公共企業体勤務	119	8.2
学生	35	2.4
主婦・主夫(パート)	186	12.9
主婦・主夫(専業)	166	11.5
その他	143	9.9
無回答	51	3.5

属性区分	回答者数 (人)	割合 (%)
【居住年数別】		
1年未満	2	0.1
1～5年未満	86	5.9
5～10年未満	14	1.0
10～20年未満	64	4.4
20年以上	1,243	85.9
無回答	38	2.6
【県外居住経験別】		
ある	753	52.0
ない	644	44.5
無回答	50	3.5
【市郡別】		
市部	1,232	85.1
郡部	215	14.9
【地域別】		
峡中	680	47.0
峡北	137	9.5
峡東	224	15.5
峡南	81	5.6
富士・東部	325	22.5
【同居家族】(MA)		
いない(単身世帯)	919	63.5
配偶者、パートナー	628	43.4
こども	468	32.3
孫	100	6.9
父母	59	4.1
祖父母	46	3.2
その他	173	12.0
無回答	19	1.3
【世帯構成】(MA)(n=749)		
小学校入学前の乳幼児	140	18.7
小学生	171	22.8
中学生	137	18.3
高校生	135	18.0
大学、短大、専門学生等	85	11.3
75歳以上の方	361	48.2

参考：性別・年齢層別

単位：％(人)

性別・年齢	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
男 47.3 (685)	0.4 (6)	5.5 (80)	6.9 (100)	8.4 (121)	10.0 (144)	8.4 (122)	7.7 (112)	0.0 (0)
女 50.7 (734)	0.3 (4)	5.5 (79)	6.9 (100)	8.8 (127)	9.5 (138)	9.2 (133)	10.6 (153)	0.0 (0)
その他 1.9 (28)	0.0 (0)	0.4 (6)	0.3 (5)	0.4 (6)	0.6 (8)	0.1 (1)	0.1 (1)	0.1 (1)
無回答 0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
計 100 (1,447)	0.7 (10)	11.4 (165)	14.2 (205)	17.6 (254)	20.0 (290)	17.7 (256)	18.4 (266)	0.1 (1)

回答者の属性について、標本数が極端に少ない（1％未満）場合は統計的な精度が十分とはいえないため、参考値とする。

調査結果の分析

第1章 県民生活の満足度

1 満足度に関する回答の概要

(1) 質問項目及び満足度一覧

県民が居住環境や日々の暮らしの中でどの程度満足しているかを見るため、図表 1-1 に掲げる各項目について、「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階評価で回答を求めた。今回の調査では、質問領域・質問項目は原則として前回と同じとしたが、質問領域のうち、「教育・文化」を「子育て・教育」と「文化」に再編成した。また、「子育て・教育」の質問項目に「出産・育児」を新たに追加した。

過去3回の調査結果との比較と併せ、今回の調査結果をまとめると、図表 1-2 のとおりである。

図表 1-1 満足度質問項目一覧

領域	項目（略敬称）	質問内容
健康	1 日常医療	日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について
	2 救急医療	休日や夜間などの救急医療について
	3 検診・相談	市役所、町村役場が行う生活習慣病検診や医療相談について
	4 健康全般	あなたの健康を守るための環境全般について
安全	5 交通安全	毎日の生活の中での交通の安全性について
	6 防犯・防火	あなたがお住まいの地域包括支援センターでの防犯体制や防火活動について
	7 自然災害	地震や大雨による浸水・がけくずれなど自然災害からの安全性について
	8 安全全般	あなたの生活全般の安全性について
居住環境	9 自然環境	山や川などの自然環境について
	10 大気汚染等	大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの状況について
	11 公園広場等	公園、広場、遊び場などについて
	12 ごみ・生活排水	あなたの地域でのごみや生活排水の処理について
	13 住宅	現在お住まいの住宅の敷地や建物の広さについて
	14 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通の利便性について
	15 道路	あなたの地域の道路の整備状況について
仕事	16 買い物	日常の買い物の利便性について
	17 居住環境全般	あなたの居住環境全般について
	18 就職の機会	自分の望む仕事に就職、転職する機会や職業紹介について
	19 労働条件	労働時間や休日、福利厚生、仕事の安全衛生などについて
	20 仕事のやりがい	今の仕事のやりがいについて
	21 仕事全般	あなたの今のお仕事全般について

所得・消費	22 所得	あなたのご家庭の所得について
	23 資産	あなたのご家庭の資産（預貯金、株式、不動産など）について
	24 消費	商品（サービス）の種類や豊富さについて
	25 物価	最近の物価について
	26 所得・消費全般	あなたのご家庭の暮らしむき全般について
子育て・教育	27 出産・育児	出産・育児環境について
	28 幼稚園・保育所	幼稚園、保育所などの施設について
	29 小中高の教育	小・中学校、高等学校などの教育について
	30 高等教育の機会	県内で大学、短期大学、専門学校などの教育を受ける機会について
	31 家庭教育	しつけなどの各家庭の教育について
	32 子育て・教育全般	あなたのご家族の子育て・教育全般について
文化	33 生涯教育	趣味の会、教養講座などの文化活動に参加したり、すぐれた芸術文化に接したりする機会について
	34 文化施設	図書館、文化ホール、美術館、博物館などの施設について
	35 文化財・伝統継承	史跡、文化財、郷土芸能、まつりなどの保存や伝承について
	36 文化全般	あなたが日ごろ接している文化全般について
余暇	37 自由時間	あなたが自由にできる時間について
	38 余暇施設	スポーツ、レクリエーションなどのための身近な施設やそれらの利用のしやすさについて
	39 娯楽	県内の映画館、劇場、遊園地などでの娯楽・レジャーについて
	40 余暇情報	催し物・イベントなどの余暇情報を得る機会について
	41 自然と親しむ機会	ハイキングなど自然と親しむ機会について
	42 余暇全般	あなたの休日や余暇の過ごし方全般について
福祉・連帯	43 地域とのつながり	近所づきあいや地域で行われる行事への住民の参加について
	44 福祉施策	お年寄り、子ども、障害者などに対する国や県の施策について
	45 福祉・連帯全般	あなたがお住まいの地域での人のつながりや福祉サービス全般について
46 生活全般	あなたの生活全般について	

図表 1-2 質問項目別満足度（全県）

（単位：％）

領域	項目	年度	満足度					満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			■満足	■どちらともいえない	■不満	■どちらかといえば満足	■どちらかといえば不満				
健康	日常医療	H24	15.4	38.9	25.1	11.2	5.6	3.7	54.3	16.8	37.5
		H29	18.7	40.1	23.9	8.6	5.0	3.7	58.8	13.6	45.2
		R3	22.3	40.8	21.9	7.5	3.1	4.3	63.1	10.6	52.5
		R7	19.9	42.6	21.4	7.6	4.5	4.0	62.5	12.1	50.4
	救急医療	H24	6.0	20.5	31.5	15.6	11.1	15.3	26.5	26.7	0.2
		H29	8.6	22.5	28.5	15.5	9.4	15.5	31.1	24.9	6.2
		R3	10.5	23.2	29.5	12.1	6.7	18.1	33.7	18.8	14.9
		R7	8.3	20.6	31.2	14.4	8.0	17.5	28.9	22.4	6.5
	検診・相談	H24	8.6	24.4	38.5	6.9	3.0	18.6	33.0	9.9	23.2
		H29	8.4	26.2	37.7	5.3	2.4	20.0	34.6	7.7	26.9
		R3	10.8	23.2	34.9	4.3	2.2	24.5	34.0	6.5	27.5
		R7	9.4	22.0	35.2	4.8	1.9	26.7	31.4	6.7	24.7
	健康全般	H24	7.5	29.6	39.6	8.6	4.3	10.5	37.1	12.8	24.3
		H29	9.7	33.3	37.5	7.3	3.1	9.1	43.0	10.4	32.6
		R3	13.2	33.0	34.8	5.9	2.3	10.9	46.2	8.2	38.0
		R7	10.4	32.6	36.1	6.4	3.1	11.4	43.0	9.5	33.5
安全	交通安全	H24	7.1	29.3	32.4	18.4	9.6	3.3	36.4	28.0	8.4
		H29	8.9	30.4	33.6	16.6	8.1	2.4	39.3	24.7	14.6
		R3	9.9	31.3	30.7	16.7	7.2	4.2	41.2	23.9	17.3
		R7	9.8	29.2	29.4	18.5	9.3	3.7	39.0	27.8	11.2
	防犯・防火	H24	6.5	31.8	39.7	10.4	4.1	7.5	38.3	14.5	23.8
		H29	8.6	32.8	36.5	8.6	3.6	9.9	41.4	12.2	29.2
		R3	10.6	32.3	36.6	6.9	3.3	10.4	42.9	10.2	32.7
		R7	8.4	29.2	38.4	8.6	3.9	11.5	37.6	12.5	25.1
	自然災害	H24	7.4	25.7	37.4	12.0	8.2	9.3	33.1	20.2	12.9
		H29	7.7	25.5	37.5	12.8	6.2	10.3	33.2	19.0	14.2
		R3	9.3	25.2	36.5	11.9	6.5	10.6	34.5	18.4	16.1
		R7	10.4	24.5	36.8	12.2	5.6	10.5	34.9	17.8	17.1
	安全全般	H24	6.6	34.0	41.8	9.2	3.5	4.9	40.6	12.7	27.9
		H29	8.9	37.4	37.3	8.0	2.4	6.0	46.3	10.4	35.9
		R3	11.0	38.6	35.3	7.1	2.3	5.7	49.6	9.4	40.2
		R7	11.5	36.6	34.6	8.0	3.2	6.1	48.1	11.2	36.9

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)	
		■ 満足 ■ どちらともいえない ■ 不満 ■ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ わからない										
		年度										
居住環境	自然環境	H24	21.2	41.0	21.9	7.1	4.0	4.8	62.2	11.1	51.1	
		H29	24.2	39.0	23.5	5.6	2.5	5.1	63.2	8.2	55.0	
		R3	25.4	38.4	21.5	5.7	3.0	6.0	63.8	8.7	55.1	
		R7	22.3	37.6	24.7	5.6	3.1	6.6	59.9	8.7	51.2	
	大気汚染等	H24	11.4	34.6	26.9	14.0	9.6	3.4	46.0	23.6	22.4	
		H29	14.4	37.3	25.9	12.0	6.5	3.9	51.7	18.5	33.2	
		R3	15.7	36.1	26.7	10.4	5.9	5.2	51.8	16.3	35.5	
		R7	15.3	36.4	26.3	10.8	5.9	5.2	51.7	16.7	35.0	
	公園広場等	H24	9.0	24.2	31.4	18.1	11.6	5.7	33.2	29.7	3.5	
		H29	10.8	27.0	30.4	15.6	9.5	6.7	37.8	25.1	12.7	
		R3	10.1	27.5	29.3	14.9	9.8	8.4	37.6	24.7	12.9	
		R7	10.9	27.4	27.4	16.2	10.4	7.5	38.3	26.6	11.7	
	ごみ・生活排水	H24	14.5	36.6	28.3	11.6	5.8	3.2	51.1	17.4	33.7	
		H29	17.0	39.2	24.0	9.7	5.0	5.1	56.2	14.7	41.5	
		R3	19.3	37.4	23.2	9.5	5.4	5.2	56.7	14.9	41.8	
		R7	18.9	39.2	24.0	9.0	4.1	4.8	58.1	13.1	45.0	
	住宅	H24	25.3	38.3	21.3	9.9	4.3	1.0	63.6	14.2	49.4	
		H29	29.7	37.2	19.0	8.5	3.9	1.0	66.9	12.4	54.5	
		R3	31.8	35.9	17.7	9.5	3.2	1.8	67.7	12.7	55.0	
		R7	32.2	36.9	18.2	7.3	3.2	2.1	69.1	10.5	58.6	
	公共交通機関	H24	5.7	15.5	21.1	23.0	30.2	4.4	21.2	53.2	32.0	
		H29	4.9	13.3	20.9	23.8	32.6	4.5	18.2	56.4	38.2	
		R3	7.0	13.3	22.9	23.7	26.7	6.4	20.3	50.4	30.1	
		R7	5.3	12.6	21.4	25.3	29.2	6.3	17.9	54.5	36.6	
	道路	H24	6.8	28.1	27.4	20.6	15.5	1.6	34.9	36.1	1.2	
		H29	7.7	28.8	27.5	20.6	12.8	2.6	36.5	33.4	3.1	
		R3	9.3	28.9	26.6	19.8	11.6	3.8	38.2	31.4	6.8	
		R7	9.0	28.1	24.8	23.2	12.6	2.3	37.1	35.8	1.3	
買い物	H24	13.1	36.4	21.2	15.2	13.3	0.9	49.5	28.5	21.0		
	H29	14.7	35.4	20.3	16.4	11.6	1.6	50.1	28.0	22.1		
	R3	18.9	35.6	19.6	14.0	9.8	2.0	54.5	23.8	30.7		
	R7	20.9	35.5	18.2	13.9	10.0	1.5	56.4	23.9	32.5		
居住環境全般	H24	10.9	41.2	33.1	8.9	4.3	1.6	52.1	13.2	38.9		
	H29	13.2	43.2	29.1	9.0	3.7	1.8	56.4	12.7	43.7		
	R3	16.1	44.4	25.9	7.9	2.6	3.0	60.5	10.5	50.0		
	R7	16.7	41.7	29.0	7.2	3.1	2.3	58.4	10.3	48.1		
仕事	就職の機会	H24	4.6	14.1	32.0	13.0	9.7	26.5	18.7	22.7	4.0	
		H29	6.8	16.1	32.2	11.8	8.5	24.6	22.9	20.3	2.6	
		R3	8.4	17.2	29.3	9.1	6.0	30.1	25.6	15.1	10.5	
		R7	7.9	17.5	32.7	9.3	7.0	25.6	25.4	16.3	9.1	
	労働条件	H24	6.3	18.2	31.9	12.8	9.7	21.0	24.5	22.5	2.0	
		H29	6.7	21.8	30.4	11.2	9.3	20.6	28.5	20.5	8.0	
		R3	11.0	22.0	25.6	9.8	7.0	24.5	33.0	16.8	16.2	
		R7	10.6	24.3	29.0	11.0	7.5	17.6	34.9	18.5	16.4	
	仕事のやりがい	H24	11.7	29.3	27.2	7.0	6.0	18.7	41.0	13.0	28.0	
		H29	12.3	29.0	26.5	7.4	5.3	19.5	41.3	12.7	28.6	
		R3	15.2	27.7	24.9	5.8	4.0	22.5	42.9	9.8	33.1	
		R7	15.5	31.4	24.5	5.7	6.4	16.4	46.9	12.1	34.8	
	仕事全般	H24	9.9	28.7	28.9	8.3	6.3	17.9	38.6	14.6	24.0	
		H29	10.8	29.0	26.8	8.0	6.2	19.2	39.8	14.2	25.6	
		R3	13.3	28.0	24.5	7.2	4.3	22.6	41.3	11.5	29.8	
		R7	13.7	31.2	25.4	6.9	6.8	16.0	44.9	13.7	31.2	

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		■満足 ■どちらともいえない ■不満		■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■わからない		年度					
所得・消費	所得	H24	3.9	15.9	36.0	19.1	19.4	5.7	19.8	38.5	18.7
		H29	6.7	20.7	34.1	18.3	14.8	5.4	27.4	33.1	5.7
		R3	8.4	21.6	32.6	18.8	11.0	7.7	30.0	29.8	0.2
		R7	7.2	19.8	33.1	19.3	13.9	6.8	27.0	33.2	6.2
	資産	H24	3.0	13.1	37.9	19.1	17.2	9.7	16.1	36.3	20.2
		H29	5.2	15.7	38.5	16.6	14.0	10.0	20.9	30.6	9.7
		R3	6.3	16.8	36.6	17.6	11.5	11.2	23.1	29.1	6.0
		R7	5.7	15.3	38.4	17.1	13.8	9.7	21.0	30.9	9.9
	消費	H24	4.3	23.7	41.1	14.9	6.4	9.7	28.0	21.3	6.7
		H29	5.9	22.1	41.4	13.4	7.3	9.9	28.0	20.7	7.3
		R3	7.4	22.4	38.2	14.2	5.2	12.6	29.8	19.4	10.4
		R7	6.5	21.8	37.5	15.3	8.0	10.9	28.3	23.3	5.0
	物価	H24	1.6	8.5	33.3	26.5	26.6	3.5	10.1	53.1	43.0
		H29	2.4	8.4	34.2	28.3	22.3	4.4	10.8	50.6	39.8
		R3	2.6	8.6	32.3	27.2	22.6	6.6	11.2	49.8	38.6
		R7	0.7	1.9	9.3	24.1	61.9	2.1	2.6	86.0	83.4
所得・消費全般	H24	4.7	24.3	39.8	17.3	10.6	3.4	29.0	27.9	1.1	
	H29	7.4	29.7	38.7	13.9	7.9	2.4	37.1	21.8	15.3	
	R3	9.4	31.8	36.8	12.1	5.6	4.4	41.2	17.7	23.5	
	R7	7.3	28.0	34.0	17.3	9.4	4.0	35.3	26.7	8.6	
子育て・教育	出産・育児	H24									
		H29									
		R3									
		R7	3.9	14.9	26.7	7.7	5.8	40.9	18.8	13.5	5.3
	幼稚園・保育所	H24	7.4	23.3	30.7	6.7	4.7	27.1	30.7	11.4	19.3
		H29	7.7	24.8	29.6	7.0	5.0	25.9	32.5	12.0	20.5
		R3	8.4	21.5	27.2	4.7	2.8	35.4	29.9	7.5	22.4
		R7	6.6	18.1	25.7	6.0	4.6	39.0	24.7	10.6	14.1
	小中の教育	H24	4.8	18.9	30.7	11.8	8.3	25.4	23.7	20.1	3.6
		H29	6.3	22.9	33.3	9.4	4.6	23.5	29.2	14.0	15.2
		R3	6.9	20.3	28.9	6.4	3.8	33.7	27.2	10.2	17.0
		R7	4.8	17.5	28.4	7.9	5.9	35.5	22.3	13.8	8.5
	高等教育の機会	H24	2.5	10.2	33.2	16.6	9.6	27.9	12.7	26.2	13.5
		H29	2.8	13.5	31.8	18.1	8.7	25.1	16.3	26.8	10.5
		R3	5.0	10.8	31.5	11.6	7.0	34.1	15.8	18.6	2.8
		R7	3.5	10.0	29.2	13.9	8.6	34.8	13.5	22.5	9.0
家庭教育	H24	2.6	11.1	39.2	16.4	11.8	18.9	13.7	28.2	14.5	
	H29	3.6	15.3	41.7	13.1	7.1	19.2	18.9	20.2	1.3	
	R3	5.0	16.7	38.3	8.3	3.7	28.1	21.7	12.0	9.7	
	R7	4.8	14.2	35.1	8.5	5.7	31.7	19.0	14.2	4.8	
子育て・教育全般	H24										
	H29										
	R3										
	R7	7.7	24.1	33.1	4.2	1.7	29.2	31.8	5.9	25.9	
文化	生涯学習	H24	2.5	14.9	43.3	11.3	4.6	23.5	17.4	15.9	1.5
		H29	3.4	16.0	42.9	9.7	4.4	23.6	19.4	14.1	5.3
		R3	4.3	13.1	37.0	10.4	5.0	30.2	17.4	15.4	2.0
		R7	3.5	14.3	40.2	9.7	3.7	28.6	17.8	13.4	4.4
	文化施設	H24	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4
		H29	7.2	31.0	31.4	11.0	5.5	13.8	38.2	16.5	21.7
		R3	7.4	32.9	31.5	10.1	5.1	13.0	40.3	15.2	25.1
		R7	8.7	29.7	30.6	9.1	4.3	15.2	38.3	13.9	25.0
	文化財・伝統継承	H24	3.4	21.2	48.2	7.9	2.5	16.8	24.6	10.4	14.2
		H29	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4
		R3	5.1	27.2	40.0	7.6	2.2	17.9	32.3	9.8	22.5
		R7	6.4	20.6	39.6	7.4	2.6	21.5	27.0	10.0	17.0
	文化全般	H24									
		H29									
		R3									
		R7	6.3	18.2	43.5	4.5	2.4	25.0	24.5	6.9	17.6

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度	■満足 ■どちらともいえない ■不満		■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■わからない						
余暇	自由時間	H24	14.4	35.6	26.7	12.9	8.6	1.8	50.0	21.5	28.5
		H29	16.6	36.6	22.4	13.4	9.1	1.9	53.2	22.5	30.7
		R3	21.5	36.6	22.0	10.7	6.2	3.1	58.1	16.9	41.2
		R7	17.8	37.8	23.2	11.3	7.7	2.1	55.6	19.0	36.6
	余暇施設	H24	4.8	19.5	33.6	17.6	9.8	14.8	24.3	27.4	3.1
		H29	5.4	19.9	33.8	16.3	8.9	15.7	25.3	25.2	0.1
		R3	6.0	18.9	32.2	14.5	8.4	19.9	24.9	22.9	2.0
		R7	6.4	17.5	33.0	14.6	7.8	20.7	23.9	22.4	1.5
	娯楽	H24	2.6	18.5	31.0	20.2	15.0	12.7	21.1	35.2	14.1
		H29	4.1	16.4	27.0	23.3	18.4	10.8	20.5	41.7	21.2
		R3	4.5	15.9	28.1	20.8	13.5	17.2	20.4	34.3	13.9
		R7	4.8	16.1	26.3	26.4	16.1	10.3	20.9	42.5	21.6
	余暇情報	H24	2.7	18.9	41.9	15.7	8.3	12.5	21.6	24.0	2.6
		H29	3.8	18.3	39.9	16.4	8.8	12.8	22.1	25.2	3.1
		R3	3.9	14.4	39.5	16.3	7.6	18.3	18.3	23.9	5.6
		R7	4.6	18.2	40.8	15.8	7.7	13.1	22.8	23.5	0.7
	自然と親しむ機会	H24	6.1	27.2	40.6	6.8	2.9	16.4	33.3	9.7	23.6
		H29	8.5	25.8	39.5	6.2	2.0	1.6	34.3	8.2	26.1
		R3	10.6	26.4	35.7	4.9	2.8	19.4	37.0	7.7	29.3
		R7	9.6	27.9	35.0	4.6	1.9	21.1	37.5	6.5	31.0
余暇全般	H24	8.8	36.5	36.6	10.2	3.6	4.4	45.3	13.8	31.5	
	H29	11.0	37.1	34.6	9.4	4.4	3.5	48.1	13.8	34.3	
	R3	14.1	38.1	30.8	8.9	3.3	4.8	52.2	12.2	40.0	
	R7	13.1	40.6	29.6	8.7	4.4	3.6	53.7	13.1	40.6	

福祉・連帯	地域とのつながり	H24	8.0	29.6	41.1	9.0	3.7	8.5	37.6	12.7	24.9
		H29	9.4	28.4	39.8	8.6	4.1	9.7	37.8	12.7	25.1
		R3	8.4	25.1	40.0	8.6	5.2	12.6	33.5	13.8	19.7
		R7	6.1	22.3	42.6	9.6	6.2	13.3	28.4	15.8	12.6
	福祉施策	H24	2.0	13.4	37.4	20.8	12.7	13.7	15.4	33.5	18.1
		H29	3.2	15.5	39.1	17.7	9.8	14.7	18.7	27.5	8.8
		R3	4.4	17.1	37.3	14.3	9.6	17.3	21.5	23.9	2.4
		R7	3.2	12.9	37.6	17.5	10.9	17.9	16.1	28.4	12.3
	福祉・連帯全般	H24	3.4	20.7	40.8	13.8	5.8	15.5	24.1	19.6	4.5
		H29	5.0	22.1	42.4	9.4	5.2	15.9	27.1	14.6	12.5
		R3	5.3	21.8	40.5	8.0	4.7	19.6	27.1	12.7	14.4
		R7	4.4	17.6	41.3	10.8	4.6	21.4	22.0	15.4	6.6

生活全般	H24	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	42.9	15.0	27.9
	H29	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	48.1	12.3	35.8
	R3	10.5	43.0	33.9	7.3	2.5	2.8	53.5	9.8	43.7
	R7	10.8	39.2	33.2	9.5	3.8	3.5	50.0	13.3	36.7

※満足層＝「満足」＋「どちらかといえば満足」 不満層＝「どちらかといえば不満」＋「不満」

※満足傾向＝満足層－不満層＞0 不満傾向＝満足層－不満層＜0

※「わからない」は無回答を含む。

※四捨五入の関係から±0.1%異なる場合がある。以下の諸表においても同様である。

(1) 「生活全般」の満足度

「生活全般」の満足度は、図表1-2の最下欄に示されるように、「満足」が10.8%、「どちらかといえば満足」が39.2%である。満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の比率は、前回（令和3年度調査）の53.5%を3.5ポイント下回った50.0%である。

また、「どちらかといえば不満」は9.5%、「不満」は3.8%であり、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）は、前回の9.8%を上回る13.3%であった。

満足層と不満層の差（満足傾向）は36.7%であり、前回の43.7%を7.0ポイント下回り、30%台となった。

(2) 「領域全般」の満足度

満足層の割合が最も大きい領域となったのは、前々回及び前回から引き続き、「居住環境全般」で58.4%である。次いで、「余暇全般」が53.7%、「安全全般」が48.1%と続いている。前回と比較すると、「余暇全般」、「仕事全般」を除く領域において満足層の割合が減少しており、特に「所得・消費全般」で5.9ポイント減少しているなど、領域全般における県民の満足層の割合は前回調査に比べ縮小している。

一方で、不満層の割合が最も大きい領域は、こちらも前々回、前回と同様、「所得・消費全般」で26.7%である。次いで、「福祉・連帯全般」が15.4%、「仕事」が13.7%と続いている。前回と比較すると、「居住環境全般」を除く領域において不満層の割合が拡大しており、特に「所得・消費全般」で9.0ポイント増加している。

今回の調査では、前回同様、各領域において、満足層が不満層を上回っている満足傾向となっており、その傾向の強い順に示すと、「居住環境全般」の48.1%が最上位となり、次いで、「余暇全般」が40.6%、「安全全般」が36.9%と続いている。なお、「仕事全般」及び「余暇全般」を除く領域において前回よりも満足傾向の比率が減少しており、特に「所得消費全般」で14.9ポイント減少している。

(3) 「個別項目」の満足度

満足層の割合が大きい項目（50%以上）としては、大きい順に、「住宅」（69.1%）、「日常医療」（62.5%）、「自然環境」（59.9%）が挙げられる。なお、「住宅」、「自然環境」、「日常医療」、「ごみ・生活排水」、「自由時間」の5項目は、過去3回の調査においても満足層の割合が50%以上となっている。

これに対して、満足層の割合が小さい項目（20%以下）は、小さい順に「物価」（2.6%）、「高等教育の機会」（13.5%）、「福祉施策」（16.1%）が挙げられる。なお、「物価」、「高等教育の機会」、「生涯学習」の3項目は、前回から引き続き満足層が20%以下となっている。

一方、不満層の割合が大きい項目（50%以上）は、「物価」（86.0%）、「公共交通機関」（54.5%）の2項目であり、前回の調査から1項目増加した。

次に、満足傾向・不満傾向について見ると、満足傾向（満足層の割合が不満層の割合を上回るもの）が強い項目（30%以上）は、満足傾向（プラス値）の強い順に、「住宅」（58.6%）、「自然環境」（51.2%）、「日常医療」（50.4%）など10項目となった。

また、不満傾向（不満層の割合が満足層の割合を上回るもの）の項目を挙げると、不満傾向（マイナス値）の強い順に、「物価」（83.4%）、「公共交通機関」（36.6%）、「娯楽」（21.6%）など8項目となった。

図表 1-3 質問項目別満足層・不満層の対前回増減（全県）

区分	「不満層」が減少	「不満層」が増加
「満足層」が増加	○自然災害 ○生涯学習 ○自然と親しむ機会	○ごみ・生活排水 ○自由時間 ○余暇施設
「満足層」が減少	・自然環境 ・文化施設	●日常医療 ●交通安全 ●公共交通機関 ●所得 ●物価 ●高等教育の機会 ●地域とのつながり
		□公園広場等 □仕事のやりがい
		□買い物 □文化財・伝統継承
		□労働条件 □娯楽
		●救急医療 ●防犯・防火 ●道路 ●資産 ●幼稚園・保育所 ●家庭教育 ●福祉施策
		●検診・相談 ●大気汚染等 ●就職の機会 ●消費 ●小中高の教育 ●余暇情報

図表1-3は、前回との比較を、満足層の増減・不満層の増減を組み合わせ整理した表である。

図表1-3の左上の象限（満足層増加・不満層減少）の項目は、満足度水準を引き上げるまたは維持する方向に作用するが、ここには「出産・育児」を除いた全体35項目中の7項目（前回20項目）が属する。一方、右下の象限（満足層減少・不満層増加）の項目は、満足度水準を引き下げる方向に作用するため、今後注視していくべき項目と位置付けられるが、20項目（前回3項目）となっており、全体的に県民満足度は減少傾向にある。

なお、前回、右下の象限に属していた「生涯学習」と「文化財・伝統継承」がそれぞれ左上の象限と右上の象限に移動している。

2 「生活全般」の属性別満足度

(1) 地域別による満足度

図表 1-4 「生活全般」の満足度（地域別）

(単位：点、%)

地域	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
全 県	H24	31	6.9	36.0	42.9	39.7	10.7	4.3	15.0	2.5	27.9	
	H29	42	8.9	39.2	48.1	37.3	9.1	3.2	12.3	2.3	35.8	
	R3	53	10.5	43.0	53.5	33.9	7.3	2.5	9.8	2.8	43.7	
	R7	45	10.8	39.2	50.0	33.2	9.5	3.8	13.3	3.5	36.7	
峡 中	H24	37	7.8	37.3	45.0	39.4	10.2	3.0	13.2	2.4	31.8	
	H29	46	9.1	41.9	51.0	35.0	8.5	3.2	11.7	2.3	39.3	
	R3	54	11.3	42.9	54.2	33.4	7.2	2.8	10.0	2.4	44.2	
	R7	52	12.1	40.9	53.0	31.0	9.4	2.6	12.0	4.0	41.0	
峡 北	H24	30	7.1	37.4	44.5	35.5	12.9	4.5	17.4	2.6	27.1	
	H29	48	9.1	39.2	48.3	44.1	6.3	1.4	7.7	0.0	40.6	
	R3	50	9.9	41.1	51.0	37.6	8.5	1.4	9.9	1.4	41.1	
	R7	36	8.0	39.4	47.4	32.8	10.9	5.1	16.0	3.6	31.4	
峡 東	H24	20	4.3	37.6	41.8	36.9	13.5	6.4	19.9	1.4	21.9	
	H29	41	9.4	37.2	46.6	35.4	11.6	2.5	14.1	4.0	32.5	
	R3	60	11.2	43.0	54.2	34.9	5.8	1.2	7.0	3.9	47.2	
	R7	35	9.8	37.1	46.9	34.4	10.7	5.8	16.5	2.2	30.4	
峡 南	H24	24	5.2	35.7	40.9	37.4	13.9	4.3	18.3	3.5	22.6	
	H29	45	7.8	44.0	51.7	35.3	6.9	4.3	11.2	1.7	40.5	
	R3	52	8.2	43.9	52.1	37.8	9.2	0.0	9.2	1.0	42.9	
	R7	47	13.6	37.0	50.6	30.9	7.4	6.2	13.6	4.9	37.0	
富士・東部	H24	30	7.4	32.1	39.5	44.4	7.9	4.9	12.8	3.2	26.7	
	H29	34	8.4	34.2	42.6	41.1	9.9	4.1	14.0	2.3	28.6	
	R3	49	9.3	43.9	53.2	31.8	7.6	3.7	11.3	3.7	41.9	
	R7	41	9.2	37.5	46.7	37.8	8.9	3.7	12.6	2.8	34.1	

図表1-4は、「生活全般」の満足度について地域別に示した表である。

まず、満足層の割合の大きい地域は、「峡中」が53.0%で最も高く、次いで「峡南」が50.6%、「峡北」が47.4%と続いており、最上位の「峡中」と最下位の「富士・東部」の開きは6.3ポイントである。

図表 1-5 得点と算式

段階	満足	どちらかといえ ば満足	どちらともい えない	どちらかといえ ば不満	不満
得点	+ 200	+ 100	0	- 100	- 200

$$\text{満足度得点算出式} = \{200 \times A + 100 \times B + 0 \times C + (-100) \times D + (-200) \times E\} / m$$

- A: 「満足」と答えた回答者数
- B: 「どちらかといえば満足」と答えた回答者数
- C: 「どちらともいえない」と答えた回答者数
- D: 「どちらかといえば不満」と答えた回答者数
- E: 「不満」と答えた回答者数
- m: 「わからない」または「不明」を除く回答者数 (A+B+C+D+E)

図表1-5に示す方法で算定した満足度得点を見ると、「峡中」が52点で最も高く、次いで「峡南」が47点、「富士・東部」が41点と続いており、最上位の「峡中」と最下位の「峡東」の開きは17点である。前回との比較では、すべての地域で満足度得点が減少しており、中でも「峡東」（-25点）、「峡北」（-14点）で大きく減少している。

最後に、満足傾向・不満傾向を見ると、すべての地域において満足傾向となっている。

(2) 性別による満足度

図表 1-6 「生活全般」の満足度（性別）

性別	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえ ば満足	計		どちらか といえ ば 不満	不満	計			
男 性	H24	30	6.5	35.5	42.0	40.9	11.1	4.1	15.2	2.0	26.8	
	H29	37	7.1	38.7	45.8	39.3	10.2	3.3	13.5	1.5	32.4	
	R3	52	9.8	42.4	52.2	34.9	7.5	2.2	9.7	3.3	42.5	
	R7	44	11.5	38.8	50.3	31.1	10.5	4.4	14.9	3.6	35.4	
女 性	H24	33	7.3	36.6	43.9	38.2	10.2	4.5	14.7	3.1	29.2	
	H29	49	10.8	39.7	50.5	35.2	7.9	3.1	11.0	3.3	39.5	
	R3	55	11.2	44.2	55.4	32.8	7.0	2.6	9.6	2.1	45.8	
	R7	48	10.4	39.9	50.3	35.0	8.3	3.1	11.4	3.3	38.9	
回答し ない R3では 「その 他」	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	H29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	R3	40	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
	R7	4	3.6	28.6	32.2	39.3	17.9	7.1	25.0	3.6	7.2	

※令和3年度調査から「その他」を追加。令和7年度調査から「回答しない」に変更。

図表1-6は、性別で見た「生活全般」の満足度を示した表である。

まず、満足層の割合について見ると、「男性」、「女性」ともに50.3%と同じ割合となっている。一方、不満層の割合は、「男性」の14.9%に対して「女性」は11.4%と、「男性」の方が3.5ポイント大きくなっている。また、満足度得点及び満足傾向は、「女性」の方が「男性」よりも満足

度水準が高くなっている。

前回との比較では、「男性」、「女性」とともに満足度得点、満足層、満足傾向は増加傾向にあったが、今回から減少に転じている。

(3) 年齢別による満足度

図表 1-7 「生活全般」の満足度（年齢別）

(単位：点、%)

年齢	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不 満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
18 ～19歳	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	H29	82	17.5	52.5	70.0	22.5	2.5	2.5	5.0	2.5	65.0	
	R3	113	31.7	43.9	75.6	19.5	0.0	0.0	0.0	4.9	75.6	
	R7	140	50.0	40.0	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	
20 ～29歳	H24	34	7.5	35.4	42.9	38.5	13.7	1.9	15.5	3.1	27.3	
	H29	32	7.9	35.6	43.6	38.6	10.9	4.5	15.3	2.5	28.2	
	R3	86	26.8	38.7	65.5	24.6	4.9	2.1	7.0	2.8	58.5	
	R7	60	17.0	40.0	57.0	29.1	7.9	3.6	11.5	2.4	45.5	
30 ～39歳	H24	31	5.4	41.6	47.0	34.4	11.3	5.4	16.7	1.8	30.3	
	H29	32	9.5	32.9	42.3	39.6	11.3	4.5	15.8	2.3	26.6	
	R3	49	13.5	35.7	49.2	36.2	9.7	2.7	12.4	2.2	36.8	
	R7	39	8.8	41.0	49.8	33.2	7.3	6.8	14.1	2.9	35.7	
40 ～49歳	H24	31	5.8	35.3	41.1	44.5	10.4	2.8	13.2	1.2	27.9	
	H29	39	6.5	40.2	46.7	38.8	9.6	2.7	12.4	2.1	34.4	
	R3	43	6.0	42.2	48.2	39.4	9.2	1.6	10.8	1.6	37.4	
	R7	39	10.6	38.2	48.8	33.5	12.6	3.9	16.5	1.2	32.3	
50 ～59歳	H24	17	6.1	30.9	37.0	41.1	14.6	5.8	20.4	1.5	16.6	
	H29	41	7.2	41.0	48.1	37.2	10.6	2.0	12.6	2.0	35.5	
	R3	46	7.7	44.7	52.4	35.2	7.7	3.3	11.0	1.5	41.4	
	R7	35	7.9	37.9	45.8	34.5	12.1	4.1	16.2	3.4	29.6	
60 ～69歳	H24	37	7.6	37.7	45.3	39.5	9.9	3.4	13.3	1.8	32.0	
	H29	33	5.6	38.5	44.1	40.5	8.9	4.4	13.3	2.1	30.8	
	R3	44	6.0	43.3	49.3	39.6	5.6	3.4	9.0	2.2	40.3	
	R7	39	8.6	38.3	46.9	35.5	10.5	3.5	14.0	3.5	32.9	
70歳 以上	H24	41	8.9	36.7	45.6	37.4	5.0	5.7	10.7	6.4	34.9	
	H29	70	16.5	42.7	59.2	31.1	4.9	1.5	6.4	3.4	52.8	
	R3	56	9.1	47.1	56.2	30.0	7.3	2.1	9.4	4.4	46.8	
	R7	60	12.4	40.6	53.0	32.7	6.0	1.5	7.5	6.8	45.5	

※平成 29 年度調査から「18～19 歳」の年齢層を追加。

図表1-7は、10歳階級による年齢別の「生活全般」の満足度を示した表である（18～19歳は標本数が1%未満のため参考値とする。）。

まず、満足層の割合について見ると、「20代」が57.0%で最も高く、次いで「70歳以上」が53.0%、「30代」が49.8%と続いている。一方、不満層の割合を見ると、「40代」が16.5%で最も高く、次いで「50代」が16.2%、「30代」が14.1%と続いている。

前回との比較では、満足層の割合は「30代」及び「40代」で若干の増加はあるものの、どの年代も概ね減少している。また、不満層の割合は、「70歳以上」を除き、すべての年齢層で増加している。

次に、満足度得点について見ると、「20代」及び「70歳以上」が60点で最も高く、次いで「30代」及び「40代」及び「60代」が39点、「50代」が35点と続いている。

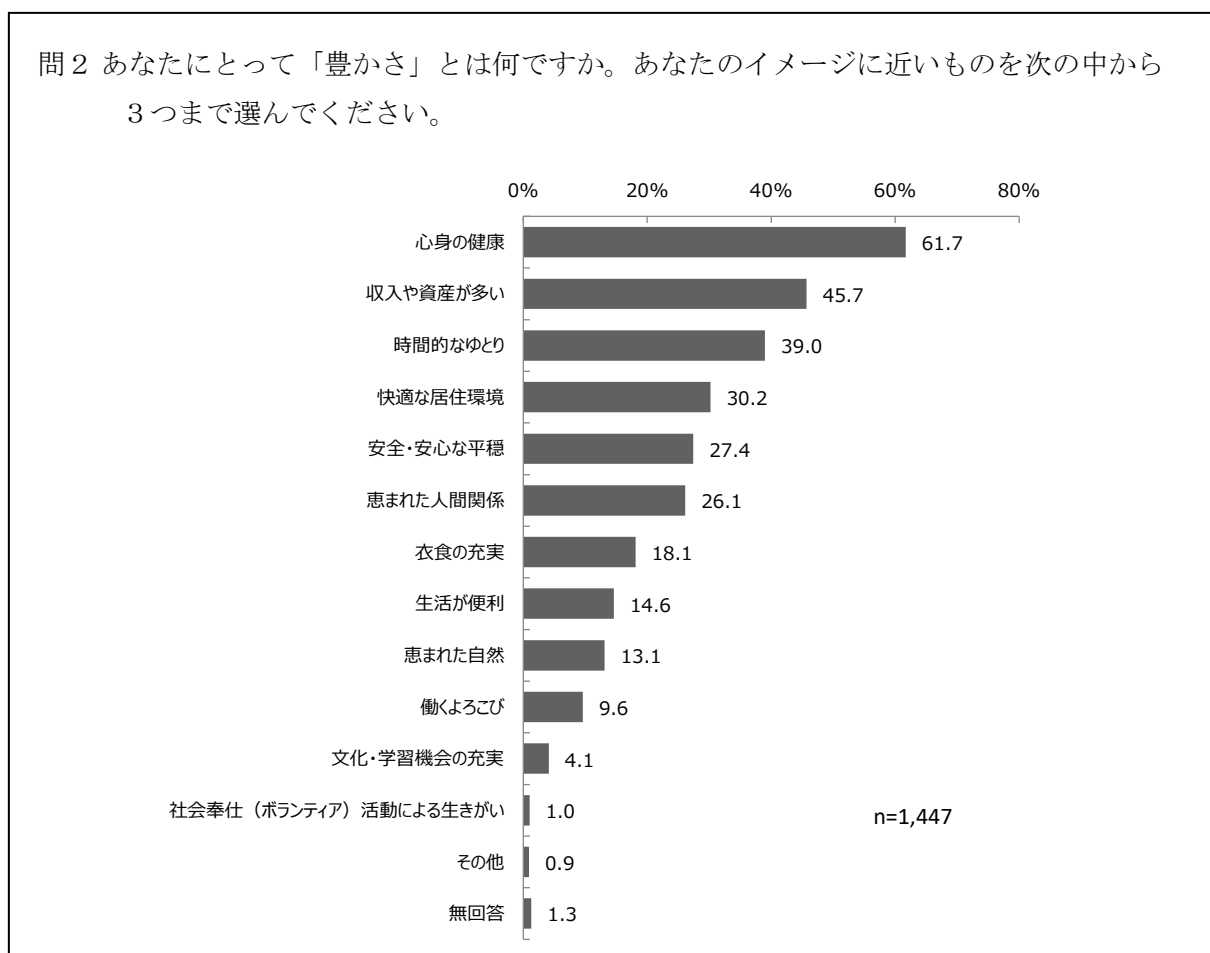
前回との比較では、概ねすべての年代で減少しており、その中でも「20代」の満足度得点は26点減少しており、減少幅が大きくなっている。

第2章 主要な事項についての県民の選好度

1 「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」実現の前提となる県民の意識

(1) 「豊かさ」のイメージ

【今回の調査結果】



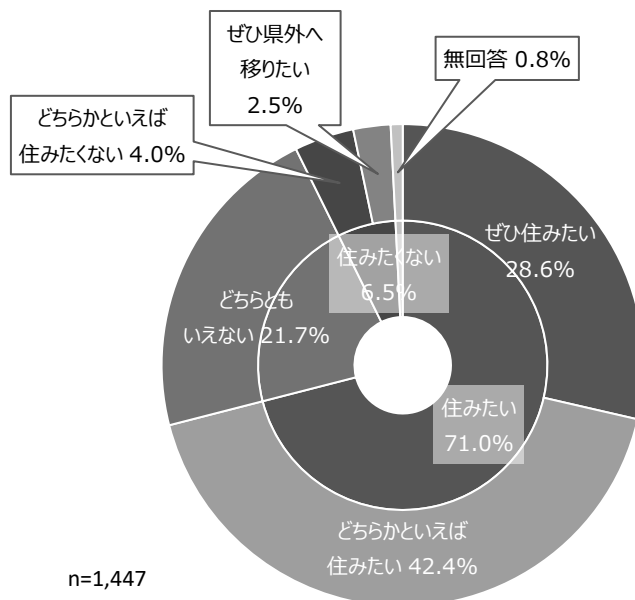
豊かさのイメージについては、「心身の健康」（61.7%）の回答率が最も高く、次いで「収入や資産が多い」（45.7%）、「時間的なゆとり」（39.0%）と続いている。

全体1位、2位の項目である「心身の健康」、「収入や資産が多い」は、前回から回答率が上がっている。また、その中でも「20代」及び「30代」においては「収入や資産が多い」が1位、「40代」以上は「心身の健康」が1位と、年代によって、「豊かさ」のイメージが顕著に変わる結果となっている。

(2) 定住意識

【今回の調査結果】

問3 あなたは、山梨県にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



山梨県への定住意識については、「ぜひ住みたい」(28.6%)と「どちらかといえば住みたい」(42.4%)の両方を合わせた「住みたい」(以下「住みたい意向」という。)が71.0%である。また、「どちらかといえば住みたくない」(4.0%)と「ぜひ県外へ移りたい」(2.5%)の両方を合わせた「住みたくない」(以下「住みたくない意向」という。)は6.5%となっている。

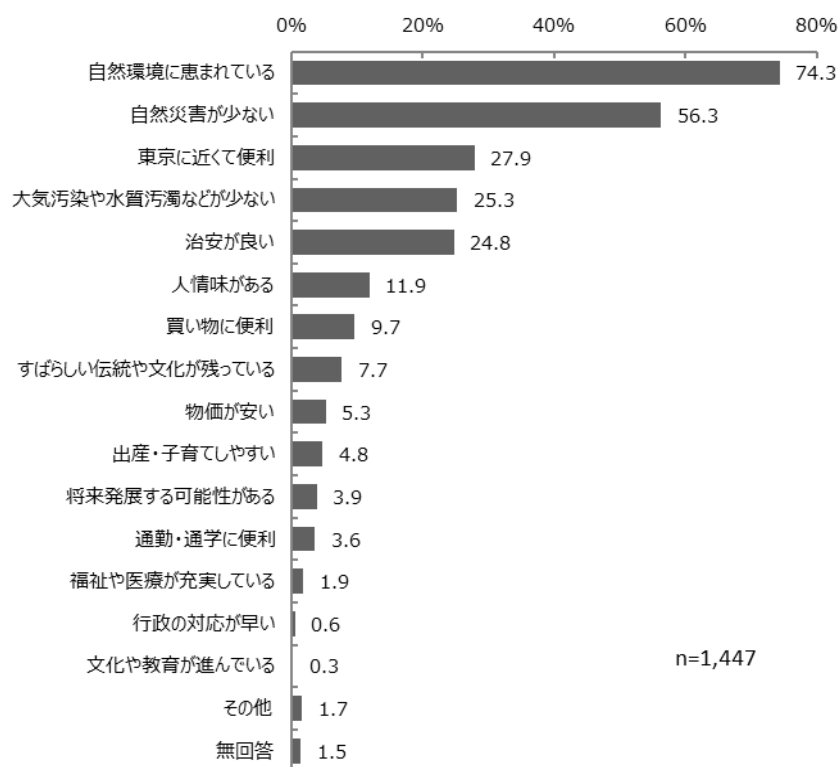
前回との比較で見ると、「住みたい意向」の減少(5.5ポイント減)と「住みたくない意向」の増加(2.0ポイント増)から、定住意識の低下がみられた。

(3) 山梨県のよいところ、よくないところ

ア. 山梨県のよいところ

【今回の調査結果】

問4 あなたは、山梨県に住んで、本県のどのような点がよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



山梨県のよいところについては、「自然環境に恵まれている」(74.3%)が高い回答率を示しており、次いで「自然災害が少ない」(56.3%)、「東京に近くて便利」(27.9%)と続いている。

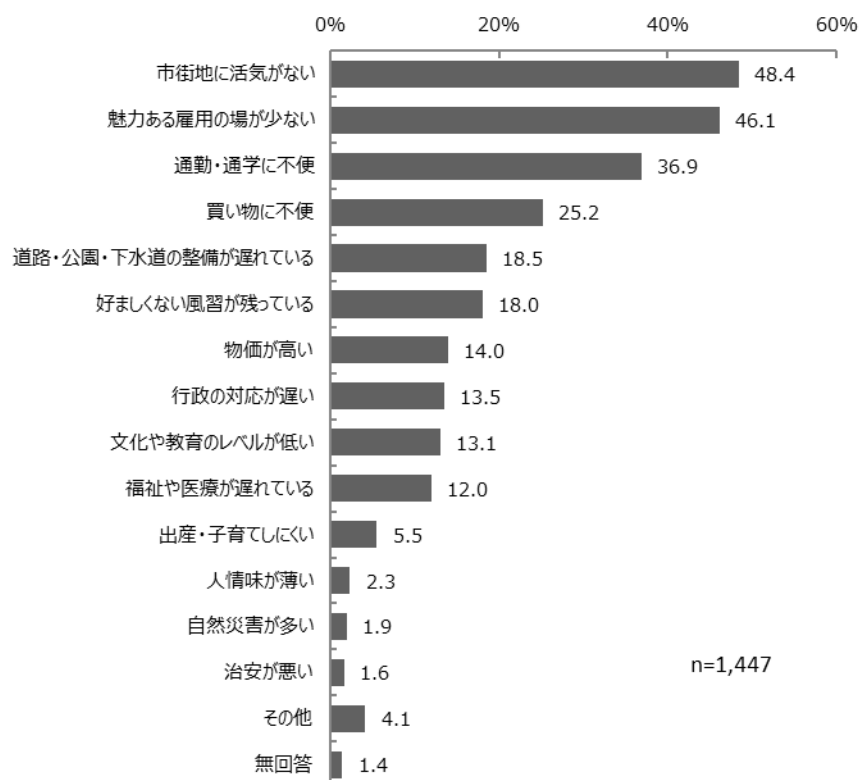
過去の調査に引き続き、「自然環境に恵まれている」はすべての属性で高い回答率を示し、県民が「山梨県のよいところ」として強く認識している結果となっている。なお、「自然災害が少ない」も全体で5割を超える回答率を示しており、災害面での安全性の評価が高い結果となっている。

また、職業別では「会社、商店、工場勤務」「官公庁、公共企業体勤務」「学生」、年齢別では「20代」「30代」を中心に、「東京に近くて便利」と示される地理的優位性も高く評価されている。一方で、地域別に見ると、「富士・東部」では「東京に近くて便利」、「峡南」では「治安が良い」、「峡中」では「買い物に便利」の回答率が比較的高く、それぞれで特色がある結果となっている。

イ. 山梨県のよくないところ

【今回の調査結果】

問5 あなたは、山梨県のどのような点がよくないと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



山梨県のよくないところについては、「市街地に活気がない」(48.4%)の回答率が最も高く、次いで「魅力ある雇用の場が少ない」(46.1%)、「通勤・通学に不便」(36.9%)と続いている。

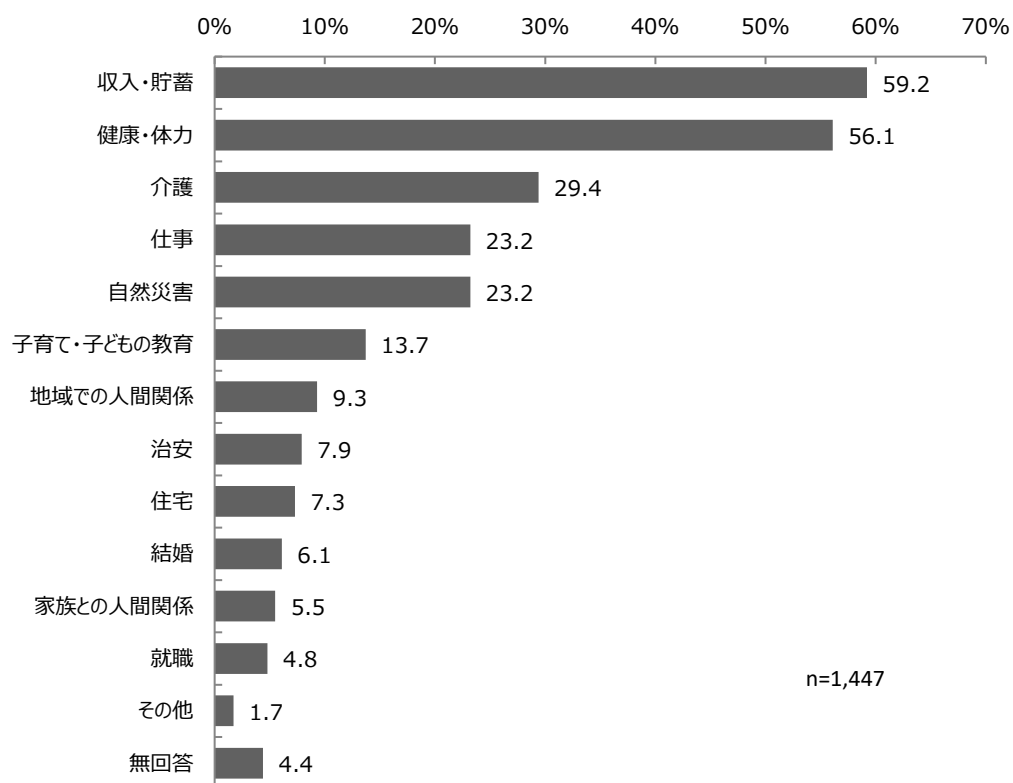
「山梨県のよくないところ」として、「市街地に活気がない」や「魅力ある雇用の場が少ない」は、過去の調査結果と比べて微減傾向であるものの、依然として5割程度の高い回答率となっており、県民が不満を感じ続けていることが確認できる。

これらに加えて、「学生」では、「通勤・通学に不便」「文化や教育レベルが低い」など、学校に関連した項目に対する回答率が比較的高くなっている。

(4) 日々の暮らしのなかで感じる悩みや不安

【今回の調査結果】

問6 あなたは、日々の暮らしのなかで、悩みや不安を感じることがありますか。ある場合は、次の中から3つまで選んでください。



本問は、県民が日々の暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じることがあるのかを把握するために新設した。日々の暮らしの中で感じる悩みや不安については、「収入・貯蓄」(59.2%)及び「健康・体力」(56.1%)の回答率が突出して高くなっている。

年齢別では、「20代」が「結婚」、「30代」が「子育て・子どもの教育」、「60代」以上が「介護」の回答率が高く、職業別では「学生」が「就職」などの回答率が高いことから、年代やライフステージごとに直面する出来事に悩みや不安を抱えていることが分かる。

2 行政の施策についての要望

【今回の調査結果】

問7 あなたが行政に対し、力を入れてほしいと思う施策はどのようなことですか。次の中から5つまで選んでください。



力を入れてほしい行政施策については、「バス・鉄道などの公共交通機関の充実と利便性の向上」（47.3%）の回答率が最も高く、次いで「雇用の創出・安定化、就職・就業の支援」（34.7%）、「高齢者、障害者をはじめ誰もが安心して生活できる地域福祉の推進」（33.9%）と続いている。

県民満足度得点における「居住環境領域」（P8参照）で過去調査を含めて一貫して大きなマイナスとなっている「公共交通機関」に関する項目が、前回同様1位となっている。

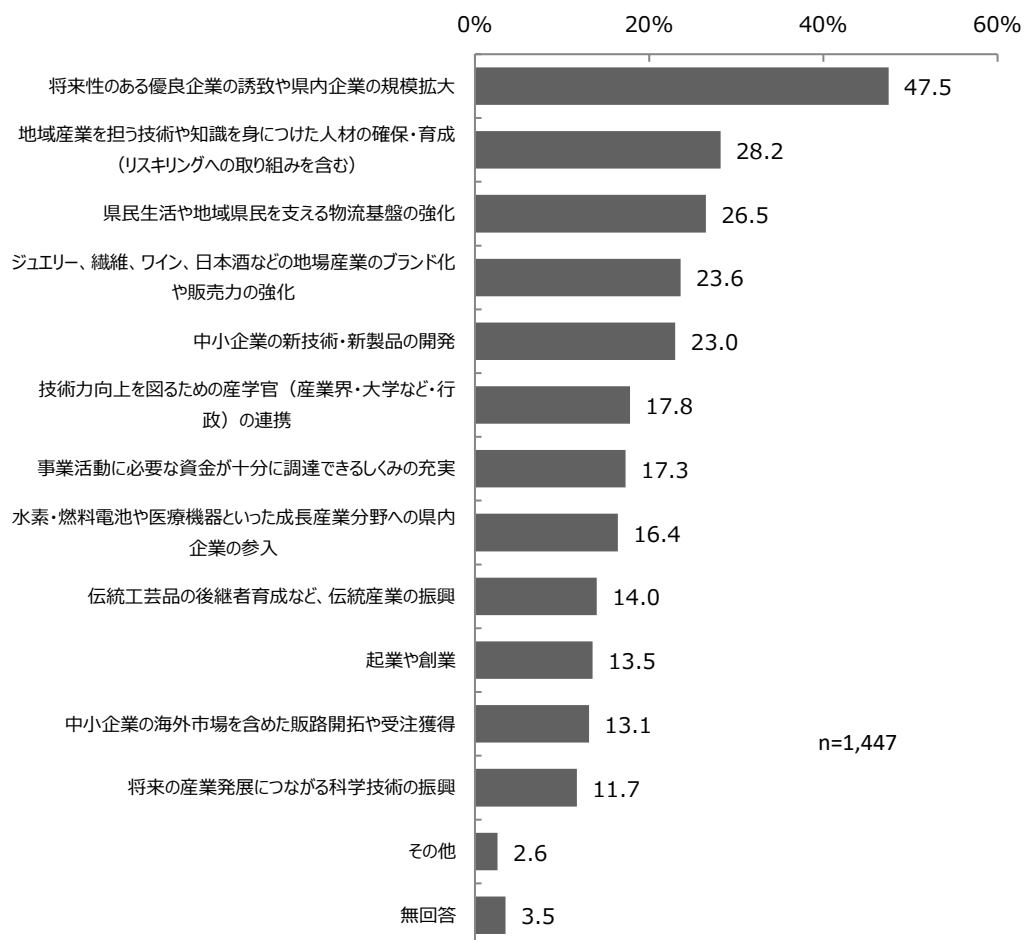
また、全体2位の「雇用の創出・安定化、就職・企業の支援」、4位の「医療体制の充実や健康づくり」及び5位の「県内経済を支える地域産業の振興」は、前回から選択肢の表現が変わっているものの、回答率が増え順位が上昇している。

3 総合計画を推進する上での主要な課題や施策についての関心

(1) 地域産業の振興

【今回の調査結果】

問8 経済の活力を高め、豊かな県民生活を維持するためには、競争力のある地域産業の振興が重要です。山梨の産業の現状から、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



地域産業の振興に関し必要なことについては、「将来性のある優良企業の誘致や県内企業の規模拡大」(47.5%)の回答率が突出して高く、次いで「地域産業を担う、技術や知識を身につけた人材の確保・育成」(28.2%)、「県民生活や地域を支える物流基盤の強化」(26.5%)と続いている。

前回に引き続き、優良企業の誘致や県内企業の規模拡大が最も大きい割合を占めたことから、地域産業の振興に向けて、企業の誘致や規模拡大が最も有効な施策として県民が大きな期待を寄せている。一方で、産業を支える「ひと」の確保・育成や、県内に根ざす中小企業の技術開発力の向上も重要な課題として認識されているが、前回ほどの関心はなく、その分物流基盤の強化において、県民から推進すべき項目として関心を集めていることがうかがえる。

(2) 農業の振興

【今回の調査結果】

問9 農業は、食料生産のほか、農村景観の形成、災害の防止など、生活にさまざまな恵みをもたらしています。山梨の農業の現状から、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



(注1) ICT:「Information and Communication Technology」の略。コンピュータや情報通信ネットワーク(インターネット等)などの情報通信技術のこと。

(注2) 4パーミル・イニシアチブ:世界の土壌表層の炭素量を年間4パーミル(0.4%)増加させることができれば、人間の経済活動などによって増加する大気中の二酸化炭素を実質ゼロにすることができるという考え方で、農業分野から脱炭素社会の実現を目指す取り組みのこと。

(注3) カーボンフリー農業:農業分野における地球温暖化の抑制対策を図るため、本県の強みであるグリーン水素や再生可能エネルギー等の地域資源を活用したエネルギーを自給自足するシステムを確立し、農業生産に要するコスト削減や高付加価値化を図るとともに、エネルギーの国際情勢に左右されない農業を推進し、本県農業者の所得を向上する取り組みのこと。

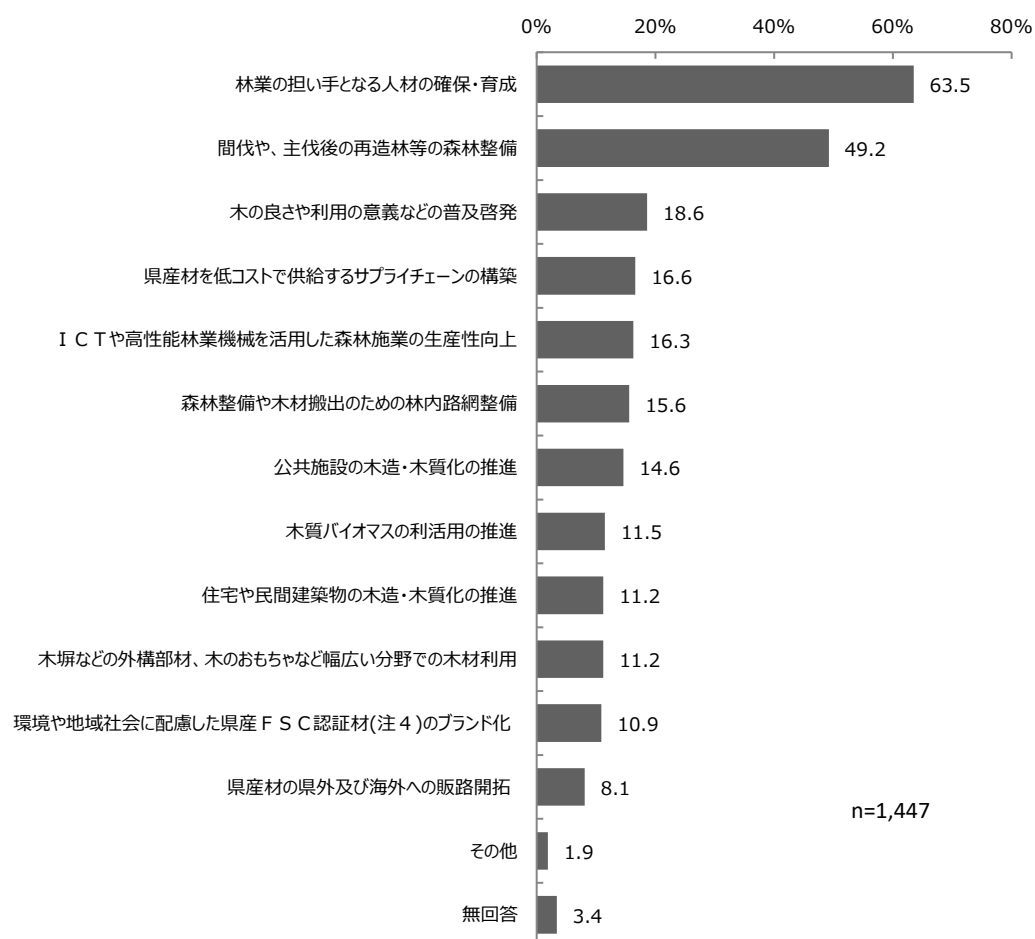
農業の振興のために必要なことについては、「新たに農業に従事する人や企業の農業参入への支援など、多様な担い手の確保・育成」(50.1%)の回答率が最も高く、次いで「耕作放棄地の再生・活用」(39.0%)、「県産農産物のブランド力の強化と消費者へのPRなど販売促進活動」(30.9%)と続いている。今後の本県における農業の振興にあたっては、これまでの調査結果と同様に、個人・企業を問わず農業への新規参入者の確保・育成が最も重要との認識が示されている。

また、県産農産物のブランド力の強化や新品種の開発・普及においても、これまでの調査結果と同様に回答率が高く重視されているが、それ以上に耕作放棄地の再生・活用、ICTを活用したスマート農業の研究・普及や4パーミル・イニシアチブやカーボンフリー農業など環境に配慮した農業の回答率が上昇していることから、農産物の高付加価値化だけでなく、農用地を有効活用することや効率的な農作業及び環境への配慮の重要性が増してきていると考えられる。

(3) 林業の振興

【今回の調査結果】

問10 山梨は県土面積の78%を森林が占めており、その豊かな森林は、木材生産をはじめ、災害の防止、水源のかん養など、さまざまな恩恵をもたらし、県民の暮らしを支えています。山梨の林業の現状から、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



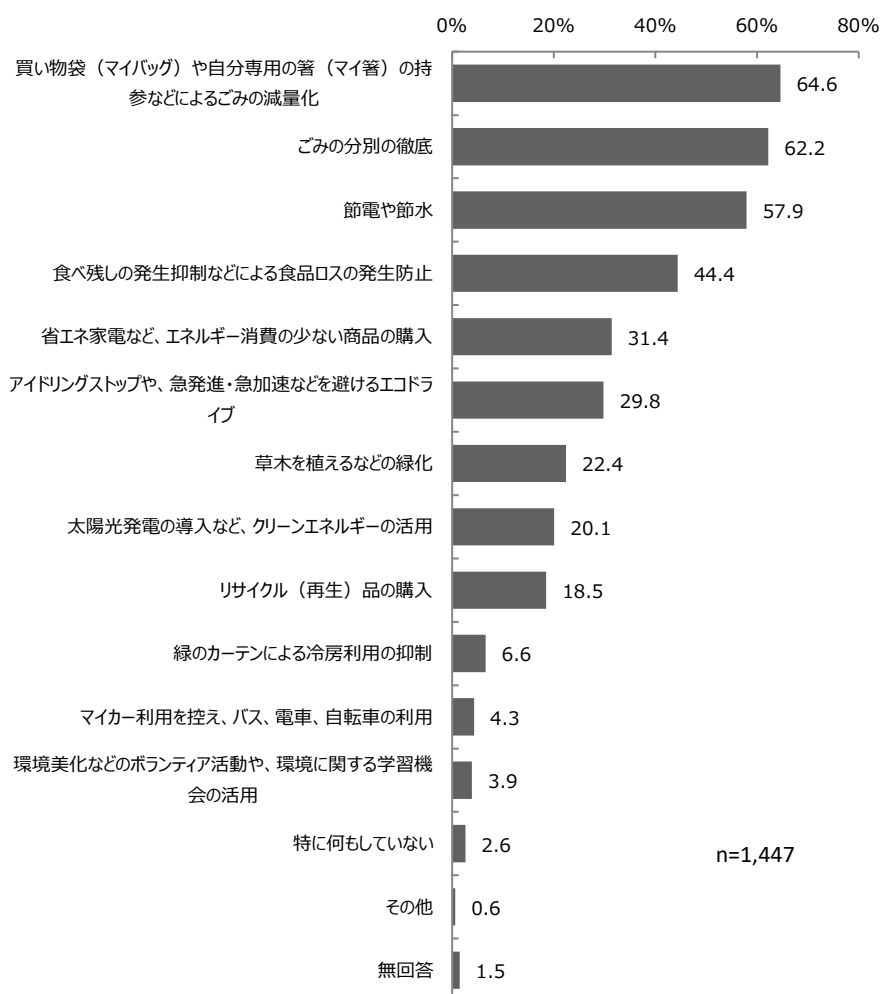
(注4) 県産F S C認証材：山梨県有林は、国際的な森林認証制度であるF S C®森林管理認証を取得し、F S C森林管理認証の原則と基準に基づき、環境や地域社会に配慮しながら、持続可能な森づくりをすすめています。県有林から生産された木材は、F S C認証材として活用されていて、F S C認証制度の大きな目的の一つでもある違法伐採の抑止にも貢献しています。

林業の振興のために必要なことについては、「林業の担い手となる人材の確保・育成」(63.5%)、「間伐や、主伐後の再造林等の森林整備」(49.2%)の2つが突出して高くなっている。「木の良さなどの普及啓発」や「低コストで供給するサプライチェーンの構築」だけでなく、「I C Tや高性能林業機械を活用した森林施業の生産性向上」を重視するなど、効率性や生産性の向上に対する取り組みが求められていることがうかがえる。

(4) 環境の保全（日常生活において心がけていること）

【今回の調査結果】

問 1 1 環境を守るため、あなたは日常生活においてどのようなことを心がけていますか。次の中から選んでください。（該当するものはすべて選択）



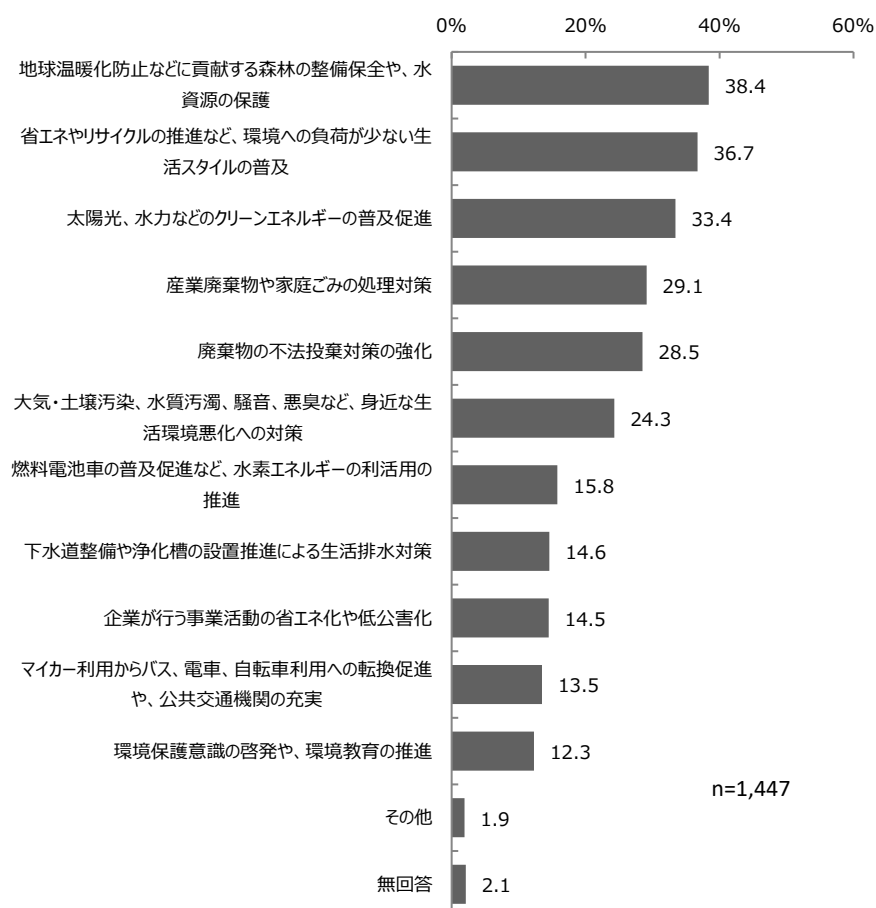
環境の保全に関する日常の心がけについては、「買い物袋（マイバッグ）や自分専用の箸（マイ箸）の持参などによるごみの減量化」（64.6%）の回答率が最も高く、次いで「ごみの分別の徹底」（62.2%）、「節電や節水」（57.9%）と続いている。

前回に引き続き、マイバック持参などにおける心がけが定着していることが分かる。また、ごみの分別や節電・節水、食品ロスの発生防止においても比較的回答率が高く、身近な活動から環境保全のためにできることを意識して活動していることから、環境保全への意識の高さがうかがえる。

(5) 環境の保全（環境を守るために必要なこと）

【今回の調査結果】

問12 環境を守るため、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



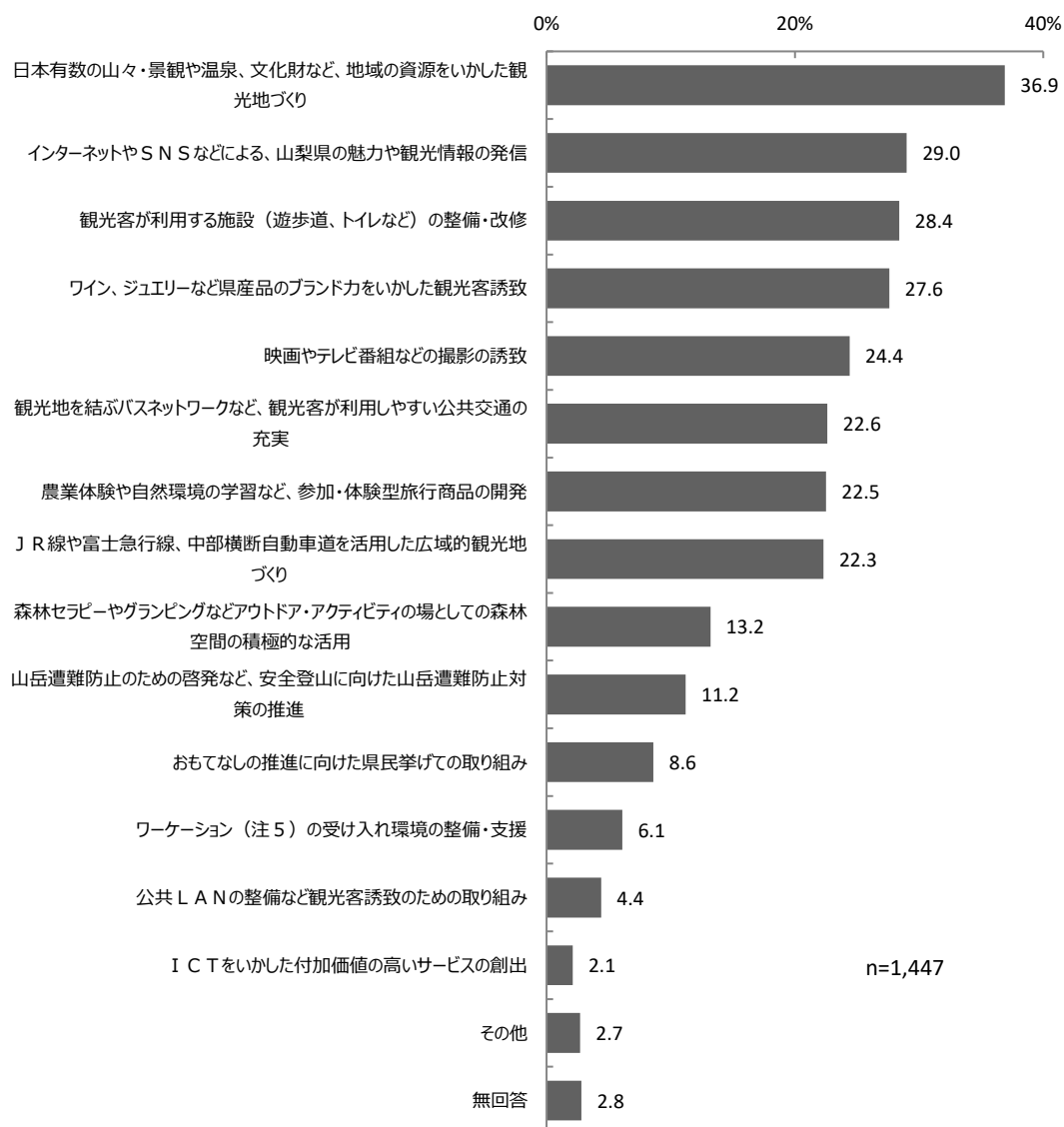
環境を守るために必要なことについては、「地球温暖化防止などに貢献する森林の整備保全や、水資源の保護」(38.4%)の回答率が最も高く、次いで「省エネやリサイクルの推進など、環境への負荷が少ない生活スタイルの普及」(36.7%)、「太陽光、水力などのクリーンエネルギーの普及促進」(33.4%)と続いている。

今回の調査では、森林の整備保全や水資源の保護や省エネやリサイクルの推進、太陽光や水力などのクリーンエネルギーの普及促進など、環境に優しいもしくは環境への負荷が少ない施策が重要視されていることが分かる。また、県民満足度得点における「居住環境領域」(P8参照)の「自然環境」での高得点や、「山梨県のよいところ」(P19参照)における「自然環境に恵まれている」の全体1位となる回答率の高さから、県民が本県の自然環境に対して満足していることがうかがえるが、本問における回答でも森林の整備保全や水資源の保護に対する要望が大きく、将来にわたって本県の自然の魅力が維持されることに関心が高いことが分かる。

(6) 観光の振興

【今回の調査結果】

問 1 3 観光の振興は、経済の活性化のほか、にぎわいや交流を通じて地域の活力向上や心の豊かさにもつながります。山梨の観光の現状から、あなたはどのようなことが必要だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。



（注5）ワーケーション：「ワーク (Work)」と「バケーション (Vacation)」を組み合わせた造語で、会社員などが、休暇などで滞在している観光地や帰省先などで働く「新しい旅のスタイル」です。

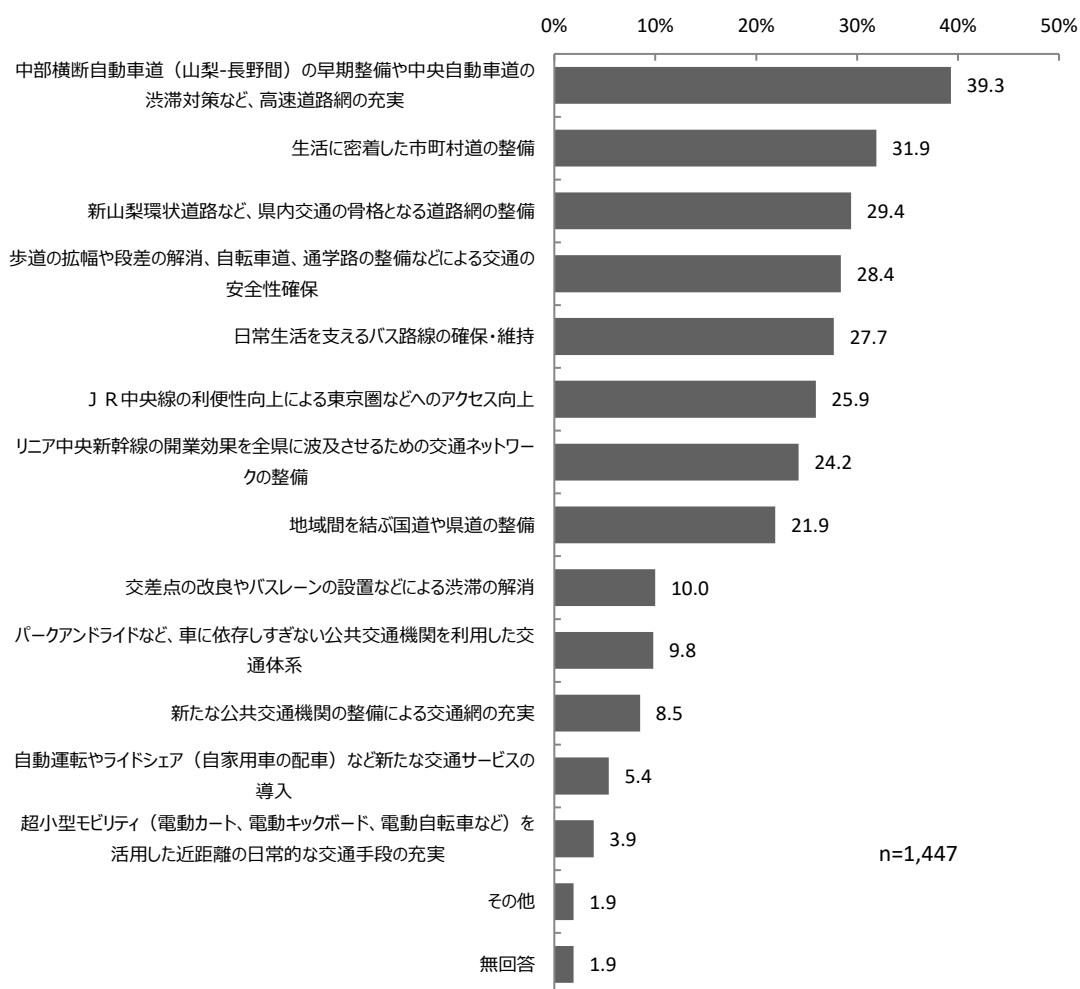
観光の振興のために必要なことについては、「日本有数の山々・景観や温泉、文化財など、地域の資源をいかした観光地づくり」(36.9%)の回答率が最も高く、次いで「インターネットやSNSなどによる、山梨県の魅力や観光情報の発信」(29.0%)、「観光客が利用する施設(遊歩道、トイレなど)の整備・改修」(28.4%)と続いている。

地域資源をいかした観光地づくりが依然として高い回答率となっているが、回答率は前回調査より大きく減少している。一方で、観光施設などの利便性・快適性の向上や、撮影の誘致、観光情報の発信などの回答率が高くなっていることから、山梨県の観光振興のためには、地域資源をいかすだけでなく、魅力発信の手法や快適に過ごしてもらう施設の整備・改修が必要であるとうかがえる。

(7) 交通政策

【今回の調査結果】

問 1 4 地域の経済の活性化や安全で豊かな生活のためには、公共交通や道路の利便性向上が重要です。山梨の交通の現状から、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



※本報告書では、調査票の表記に合わせ「山梨-長野間」と記載しているが、正式名称は「長坂-八千穂間」となる。

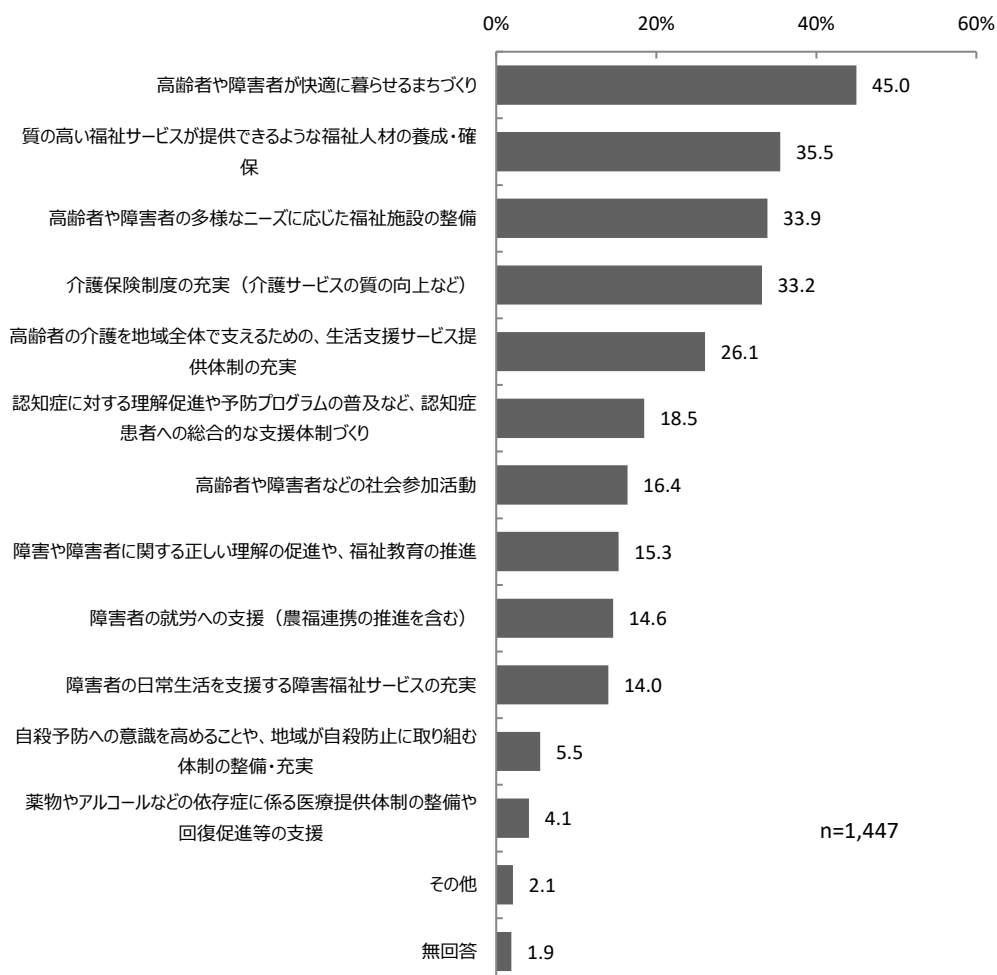
必要と考える交通施策では、「中部横断自動車道（山梨-長野間）の早期整備や中央自動車道の渋滞対策など、高速道路網の充実」（39.3%）の回答率が最も高く、次いで「生活に密着した市町村道の整備」（31.9%）、「新山梨環状道路など、県内交通の骨格となる道路網の整備」（29.4%）と続いている。

交通施策に関しては、生活に身近な道路や交通手段の安全・安心、利便性の向上を重視する層と、県内外を結ぶ広域的な交通体系の整備を重視する層に分かれており、それぞれの属性や生活形態、居住環境に応じて傾向や関心が異なることがうかがえる。

(8) 地域福祉

【今回の調査結果】

問15 高齢者や障害者をはじめ誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に向けて、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



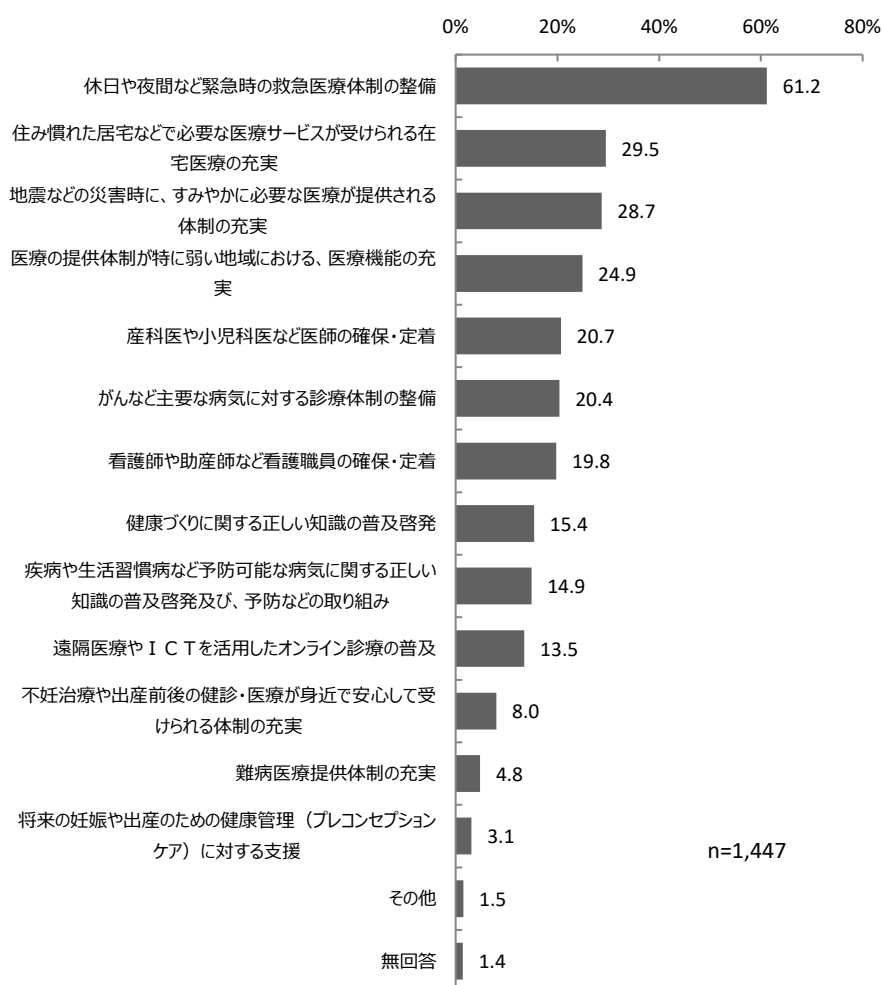
高齢者や障害者をはじめ誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に関し、必要なことについては、「高齢者や障害者が快適に暮らせるまちづくり」（45.0%）の回答率が最も高く、次いで「質の高い福祉サービスが提供できるような福祉人材の養成・確保」（35.5%）、「高齢者や障害者の多様なニーズに応じた福祉施設の整備」（33.9%）と続いている。

高齢者や障害者など、配慮が必要な人でも快適に暮らせるまちづくりに高い関心を示しており、高齢者や障害者の多様なニーズに対応するための福祉施設の整備が依然として求められているが、それ以上に質の高い福祉サービスの提供ができる福祉人材の養成や確保が必要とされていることが分かる。

(9) 保健医療

【今回の調査結果】

問16 日ごろからの健康づくりや、病気やけがなどの時に必要な医療を受けられる環境づくりのために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



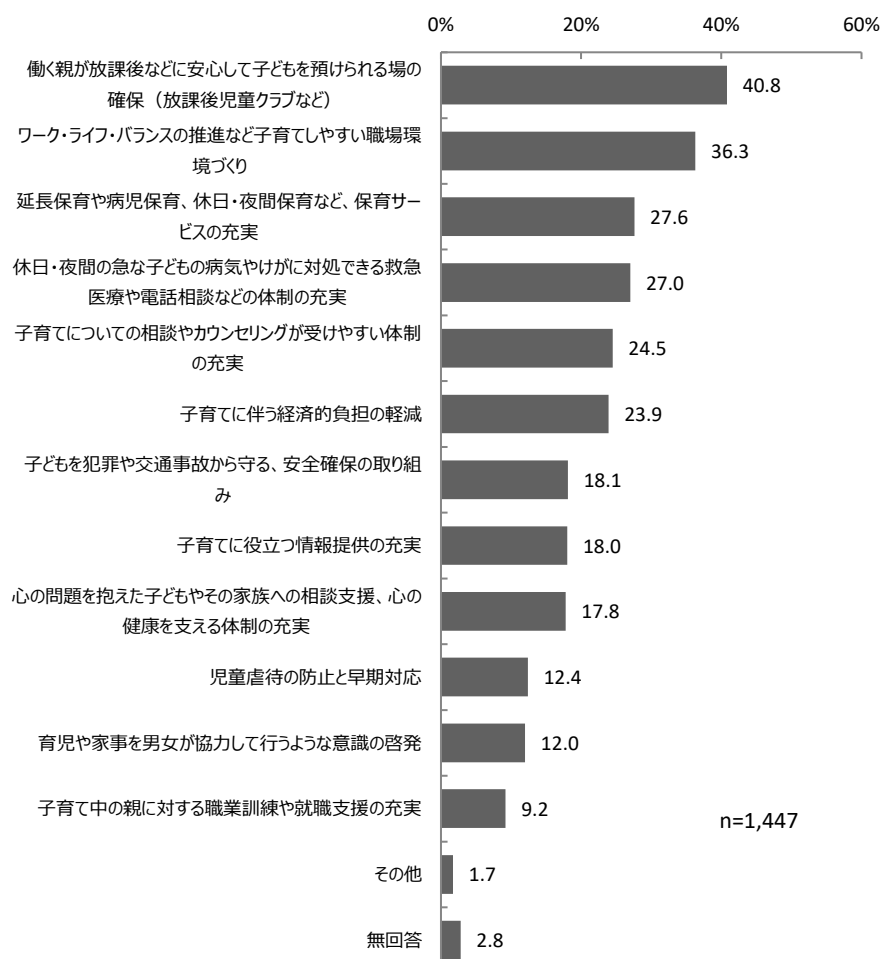
健康づくりや医療体制の整備に関し、必要なことについては、「休日や夜間など緊急時の救急医療体制の整備」(61.2%)の回答率が突出して高くなっており、次いで「住み慣れた居宅などで必要な医療サービスを受けられる在宅医療の充実」(29.5%)、「地震などの災害時に、すみやかに必要な医療が提供される体制の充実」(28.7%)と続いている。

健康づくりや医療体制の整備にあたっては、前回に引き続き緊急時や災害時における医療体制の整備が重要との認識が示されている。また、ICTを活用したオンライン診療の普及も含めた、医療が提供される体制や機能の充実だけでなく、医師や看護職員の人材確保や定着が求められていることがうかがえる。

(10) 子育て支援

【今回の調査結果】

問17 安心して子育てができる環境づくりのために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



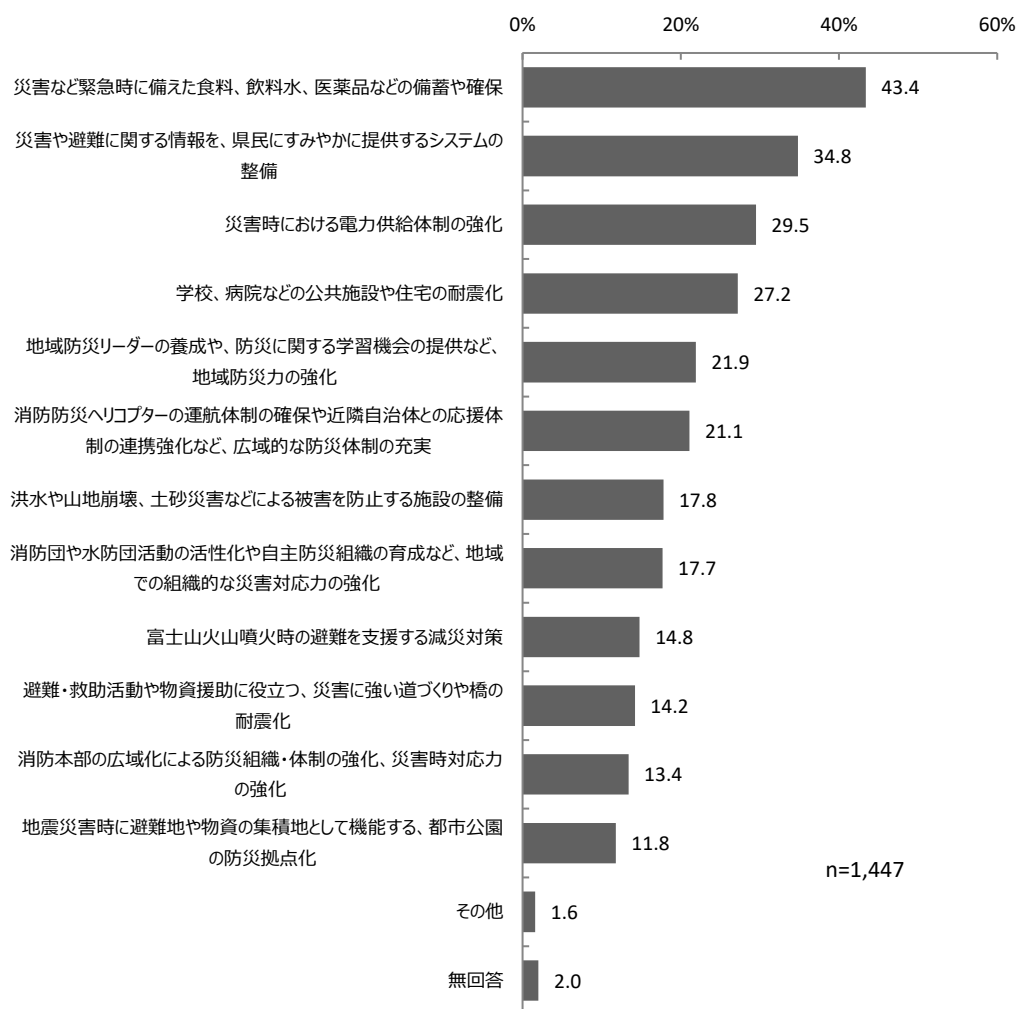
安心して子育てができる環境づくりのために必要なことについては、「働く親が放課後などに安心して子どもを預けられる場の確保 (放課後児童クラブなど)」(40.8%) の回答率が最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスの推進など子育てしやすい職場環境づくりの支援」(36.3%)、「延長保育や病児保育、休日・夜間保育など、保育サービスの充実」(27.6%) と続いている。

前回調査に引き続き、安心して子どもを預けることができる場所の確保や保育サービス、ワーク・ライフ・バランスの推進といった子育てしやすい職場環境づくりなど、働く親をサポートするための施策が上位を占めている。また、子育てについての相談や子育てに役立つ情報提供の充実など、子どもを育てるために必要な情報提供やサポートへの関心が高いことが分かる。

(11) 防災・災害対策

【今回の調査結果】

問18 大規模自然災害への対策として、地域の防災力の強化や災害に強い県土づくりを進めていくことが重要な課題となっています。県民の安全を守るために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



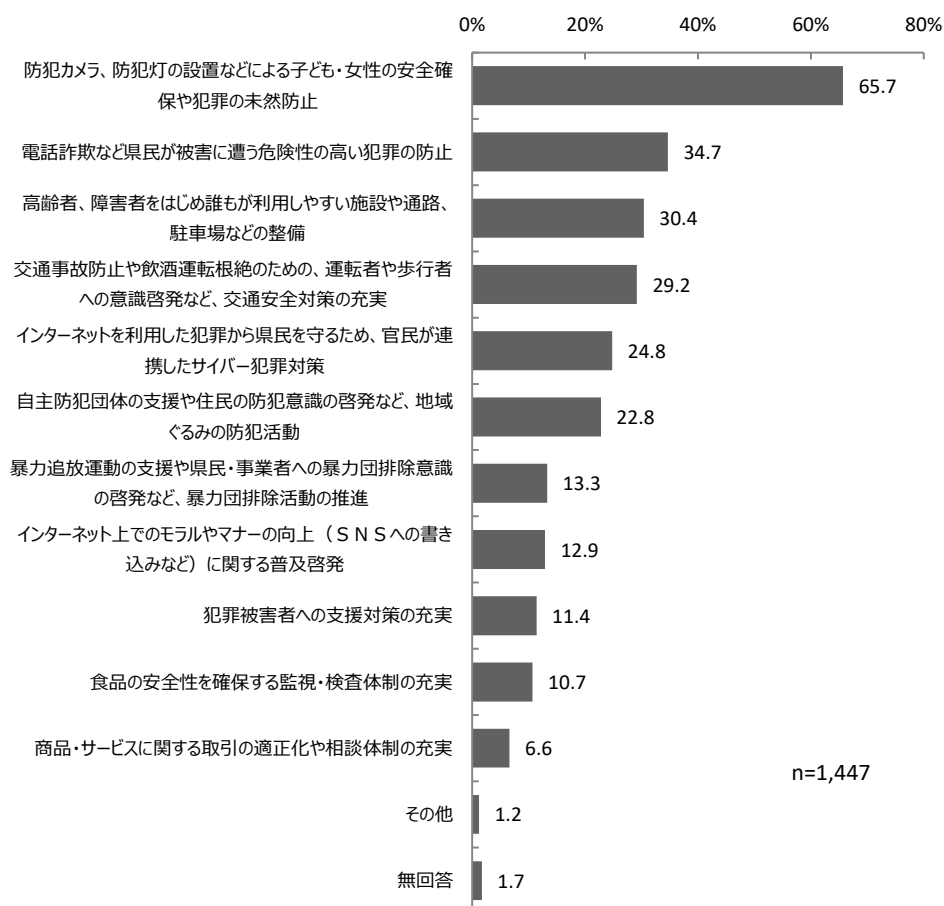
災害から県民の安全を守るために必要なことについては、「災害など緊急時に備えた食料、飲料水、医薬品などの備蓄や確保」(43.4%)の回答率が最も高く、次いで「災害や避難に関する情報を、県民にすみやかに提供するシステムの整備」(34.8%)、「災害時における電力供給体制の強化」(29.5%)と続いている。

近年は地震や大雨などの災害が日本全国で頻発していることから、災害時の備蓄や災害情報の提供に対して引き続き高い関心が示されているだけでなく、災害時における電力供給体制の強化や、公共施設や住宅の耐震化への関心も高いことが確認できる。なお、富士・東部地域では富士山の火山噴火に対する関心が高いなど、地域による関心の違いがみられる。

(12) 安全な社会づくり

【今回の調査結果】

問19 安全に暮らせる社会づくりのために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



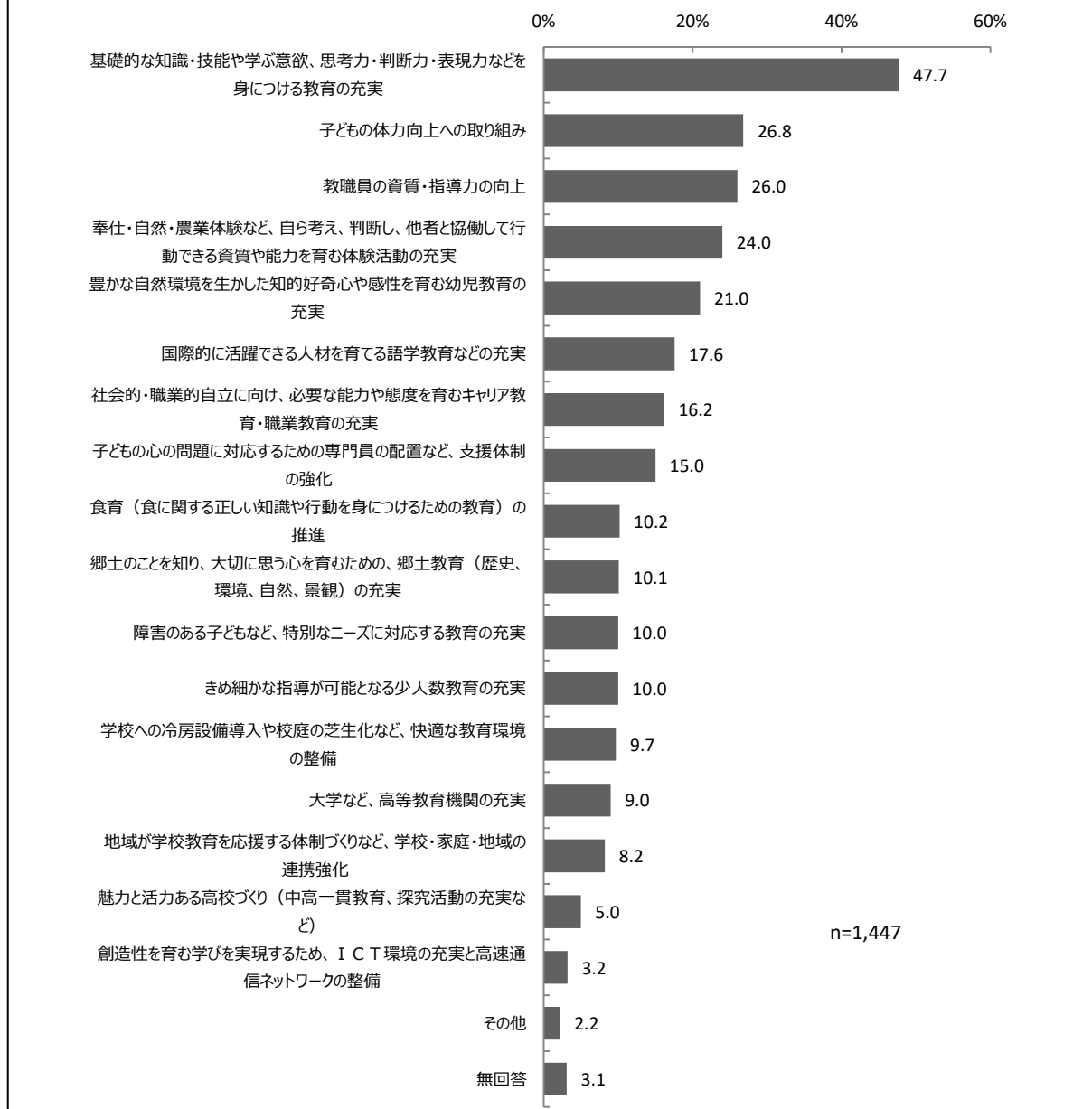
安全な社会づくりのため必要なことについては、「防犯カメラ、防犯灯の設置などによる子ども・女性の安全確保や犯罪の未然防止」（65.7%）の回答率が突出して高く、次いで「電話詐欺など県民が被害に遭う危険性の高い犯罪の防止」（34.7%）、「高齢者、障害者をはじめ誰もが利用しやすい施設や通路、駐車場などの整備」（30.4%）と続いている。

安全な社会づくりについて、子どもや女性などが犯罪に巻き込まれることを未然に防ぐための対策に、県民の関心が非常に高いことがうかがえる。また、本県においても電話詐欺の被害が依然として高い水準で発生していることから、その対応について高い関心が示されている。また、近年SNSやインターネットの利用が一般的となっており、これらを活用したトラブルや犯罪が頻発していることから、官民が連携した対策が求められている。

(13) 学校教育

【今回の調査結果】

問20 学校教育に関して、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



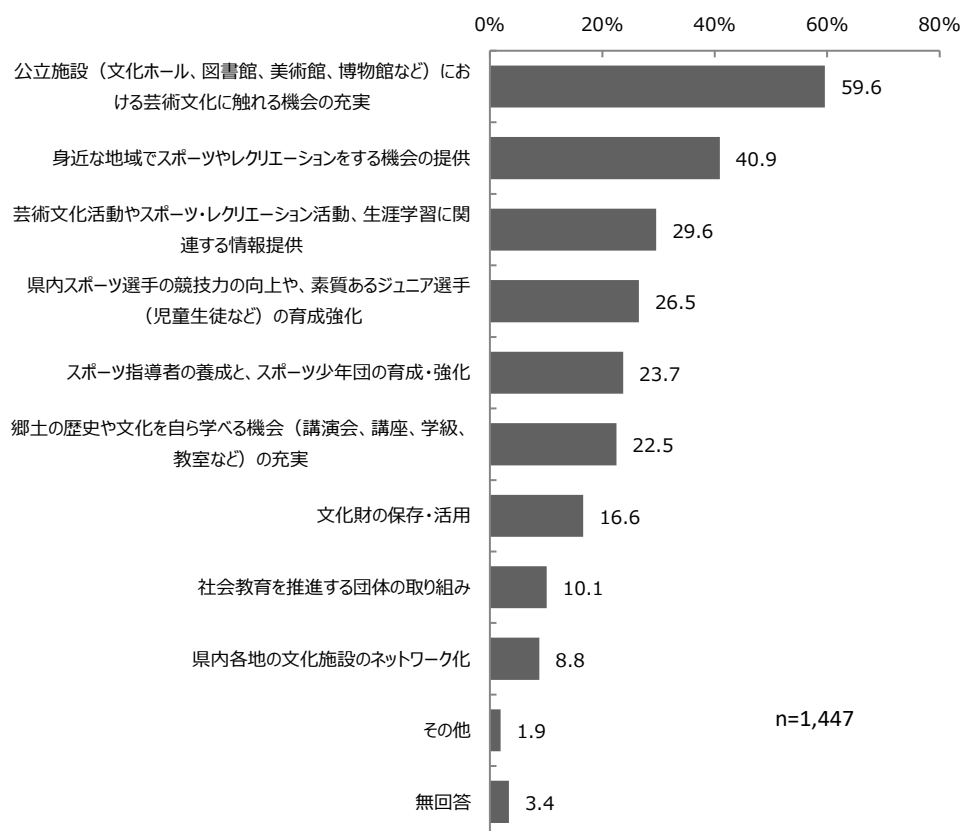
学校教育に関し必要なことについては、「基礎的な知識・技能や学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などを身につける教育の充実」(47.7%)の回答率が突出して高く、次いで「子どもの体力向上への取り組み」(26.8%)、「教職員の資質・指導力の向上」(26.0%)と続いている。

前回調査に引き続き、基礎的な知識・技能や学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などを身につけるような教育内容の充実を望む意見が多いことが分かる。また、子どもの体力向上に関する取り組みだけでなく、豊かな自然環境を生かした幼児教育や郷土教育の充実など、山梨県が持つ自然環境や風土を生かした教育に関心が高まっている。

(14) 文化・スポーツ・生涯学習

【今回の調査結果】

問2 1 芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習について、あなたほど
のようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



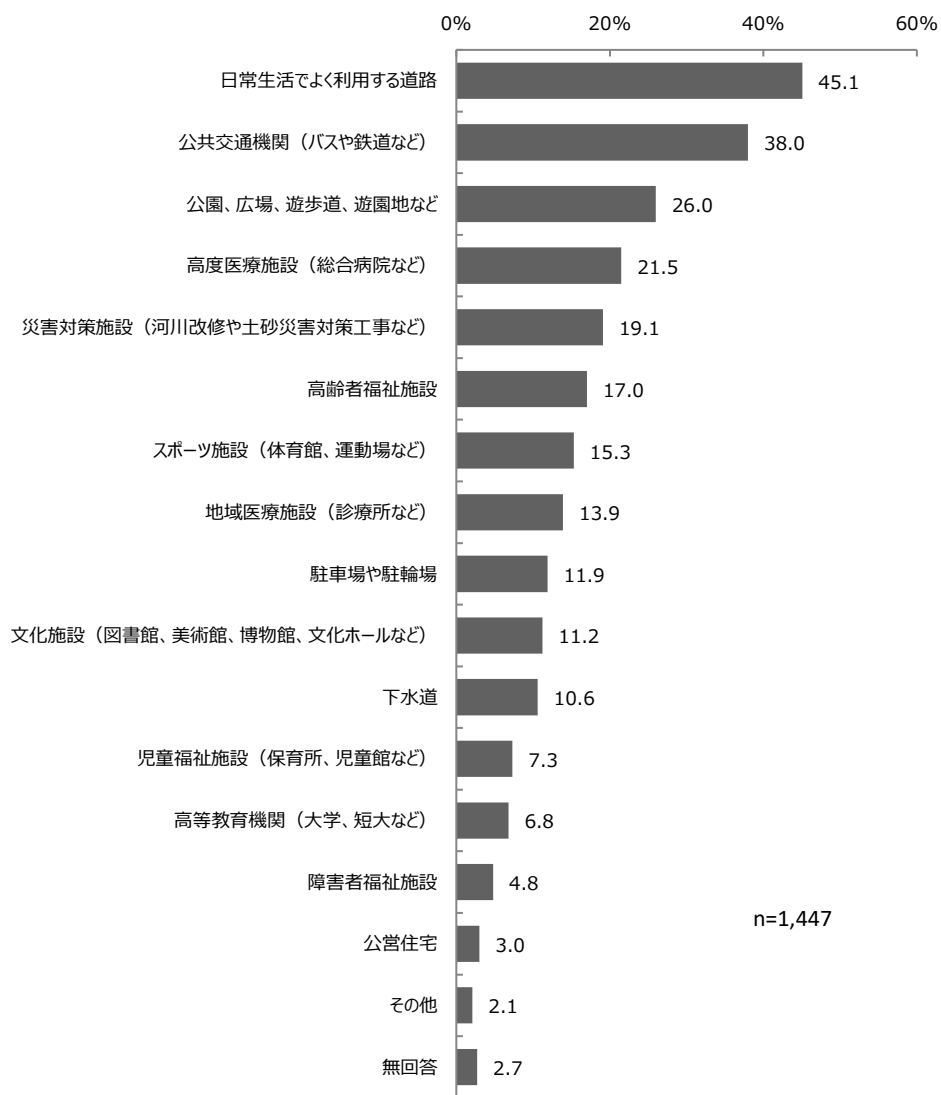
芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習に関し必要なことについては、「公立施設 (文化ホール、図書館、美術館、博物館など) における芸術文化に触れる機会の充実」(59.6%) の回答率が最も高く、次いで「身近な地域でスポーツやレクリエーションをする機会の提供」(40.9%)、「芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習に関連する情報提供」(29.6%) と続いている。

公立施設における芸術文化に触れる機会の充実や身近な地域でスポーツやレクリエーションをする機会の提供が、引き続き上位に並んだだけでなく、これらの生涯学習に関連する情報提供についても求められていることから、イベントや講習会への参加機会の充実及び情報の提供に対する希望が多いことがうかがえる。

(15) 公共施設整備についての要望

【今回の調査結果】

問22 あなたのお住まいの地域で、ぜひ整備してもらいたい公共施設は何ですか。次の中から3つまで選んでください。



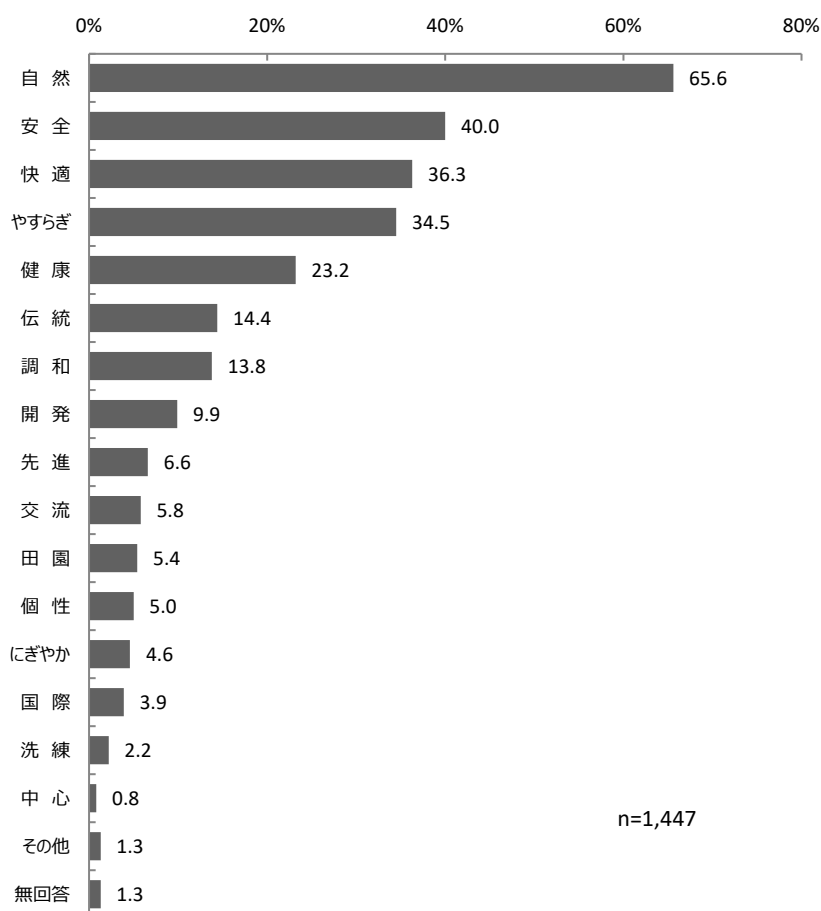
居住地域において整備を希望する公共施設としては、「日常生活でよく利用する道路」(45.1%)の回答率が最も高く、次いで「公共交通機関（バスや鉄道など）」(38.0%)、「公園、広場、遊歩道、遊園地など」(26.0%)と続いている。

地域生活に身近な公共施設として、道路や公共交通機関の整備に対するニーズが依然として高いことが確認できる。特に全体2位の「公共交通機関（バスや鉄道など）」は、県民満足度得点における「居住環境領域」(P8参照)の「公共交通機関」が過去調査に引き続きマイナスとなっていることから、県民が公共交通機関の充実を求めていることが改めて確認できる結果となった。

4 期待する山梨県の将来像

【今回の調査結果】

問23 あなたが期待する山梨県の将来像をことばで表すと、次のうちどれになりますか。
あなたのイメージに近いものを次の中から3つまで選んでください。



山梨県に期待する将来像のイメージとしては、「自然」(65.6%)の回答率が突出して高く、次いで「安全」(40.0%)、「快適」(36.3%)と続いている。

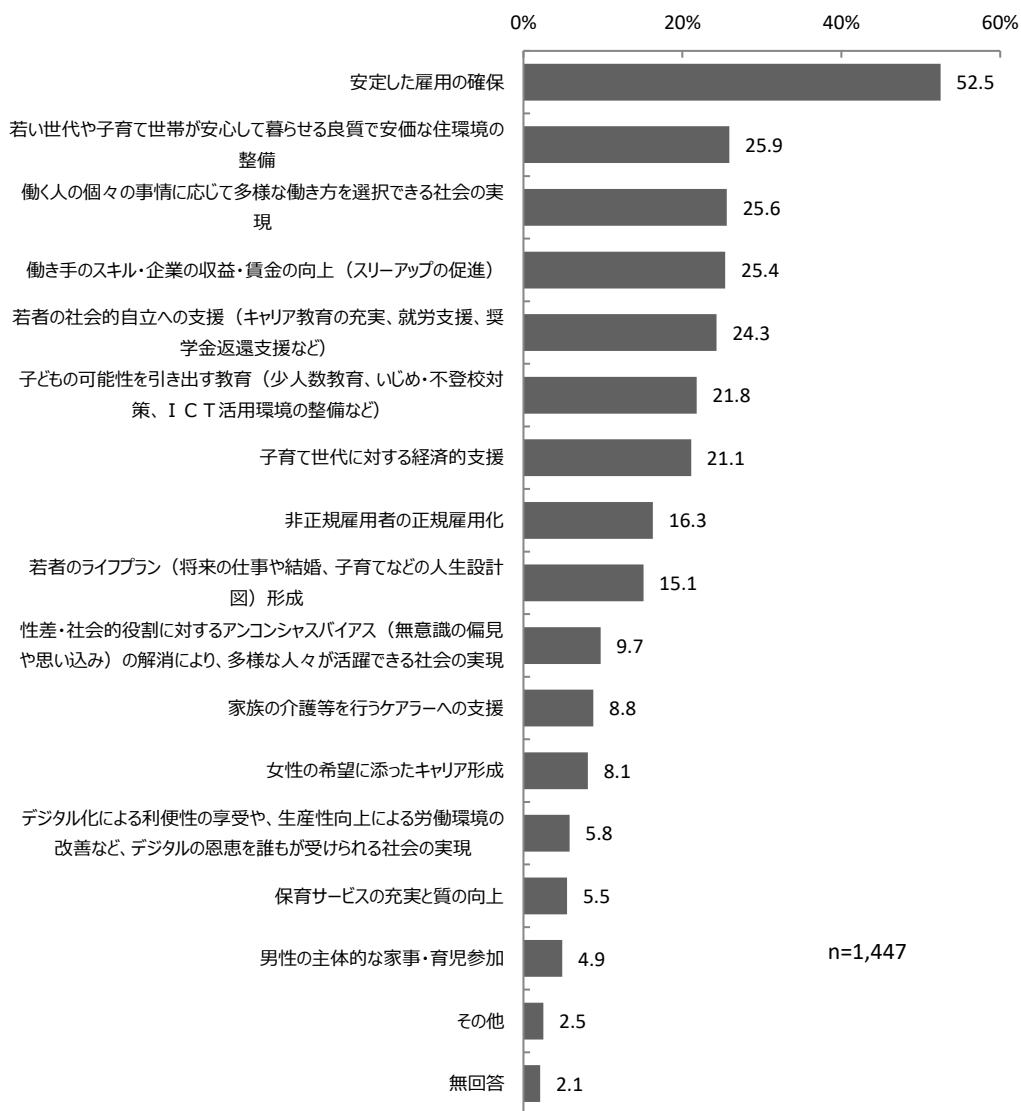
1位の「自然」は過去3回の調査においても一貫して高い回答率となっている。本調査の問4「山梨県のよいところ」(P19参照)において「自然環境に恵まれている」が1位となったことから、本県の強みとして認知されたうえで、将来にわたって本県自然の魅力が維持・向上されることに関心が高いことが分かる。

5 重点項目

(1) 人口減少対策

【今回の調査結果】

問24 人口減少による経済・産業の縮小により、住民の経済力が低下し、地域社会の様々な基盤の維持が困難となることが懸念されています。本県の人口が減少している状況から、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



人口減少対策のために必要なことについては、「安定した雇用の確保」(52.5%)の回答率が突出して高く、次いで「若い世代や子育て世帯が安心して暮らせる良質で安価な住環境の整備」(25.9%)、「働く人の個々の事情に応じて多様な働き方を選択できる社会の実現」(25.6%)と続いている。

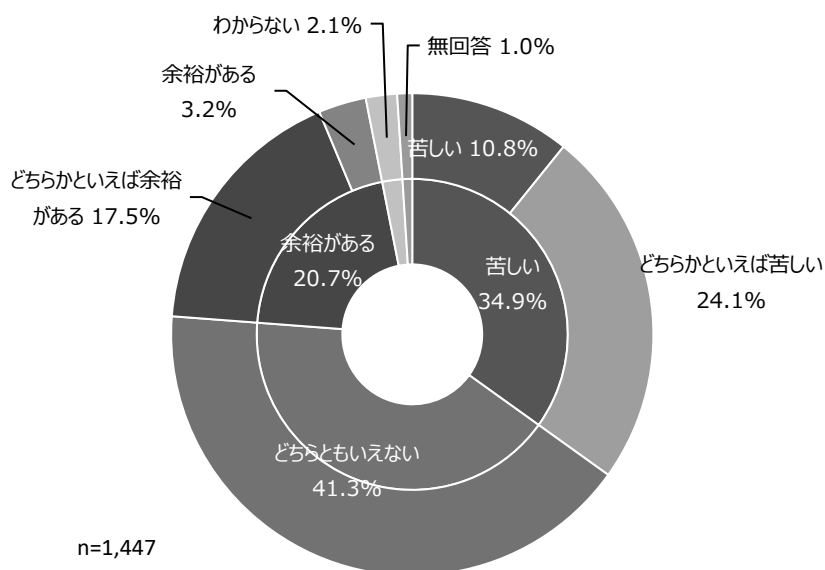
本問は、人口減少による経済・産業の縮小により、地域社会の様々な基盤の維持が困難になることが懸念されていることから、人口減少社会に対してどのような施策が重要と認識されているかを把握するために新設した。安定した雇用の確保は、世代や地域の別を問わず、共通して求められている。とりわけ若年層においては、賃金水準の向上や社会的自立に向けた支援、さらに子育て期の経済的負担の軽減を求める声が多く、将来にわたり安心して生活設計を描くことができる社会の実現が強く期待されている。一方で、高年齢層では、個々の実情に応じ、多様な働き方を柔軟に選択できる環境へのニーズが高まっている。このことから、人口減少が進む中であっても、地域社会の担い手を確保しつつ、あらゆる年代が持てる能力を最大限に発揮できる就業環境を整備することが、喫緊の課題となっている。

(2) 生活の状況

ア. 生活の状況（現在）

【今回の調査結果】

問25 あなたの生活の状況（暮らし向き）は、今どうですか。次の中から1つ選んでください。



現在の生活状況については、「苦しい」（10.8%）と「どちらかといえば苦しい」（24.1%）の両方を合わせると34.9%である（以下「苦しい計」とする）。また、「どちらかといえば余裕がある」（17.5%）と「余裕がある」（3.2%）の両方を合わせると20.7%となっている（以下、「余裕がある計」とする）。

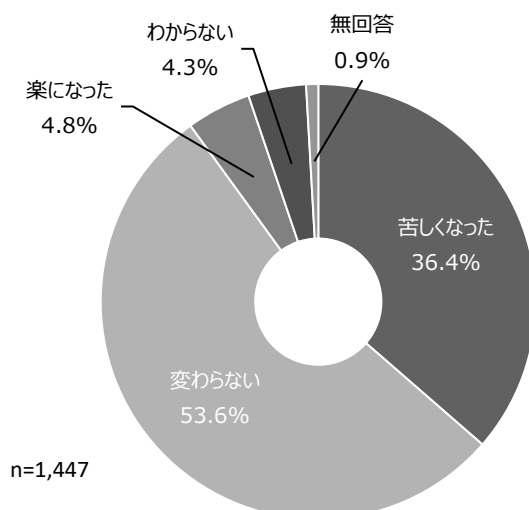
本問は、県民が今の暮らし向きについてどう感じているかを把握するために新設した。「どちらともいえない」が約4割で最も高くなったが、「苦しい計」が「余裕がある計」よりも14.2%高くなっていることから、暮らし向きは苦しい人のほうがやや多いことが分かる。

また、年齢別では40代が「苦しい計」が最も高いことに加え、「余裕がある計」も最も低い結果となっている。

イ. 生活の状況（1年前に比べて）

【今回の調査結果】

問26 あなたの生活の状況（暮らし向き）は、1年前に比べてどうですか。次の中から1つ選んでください。



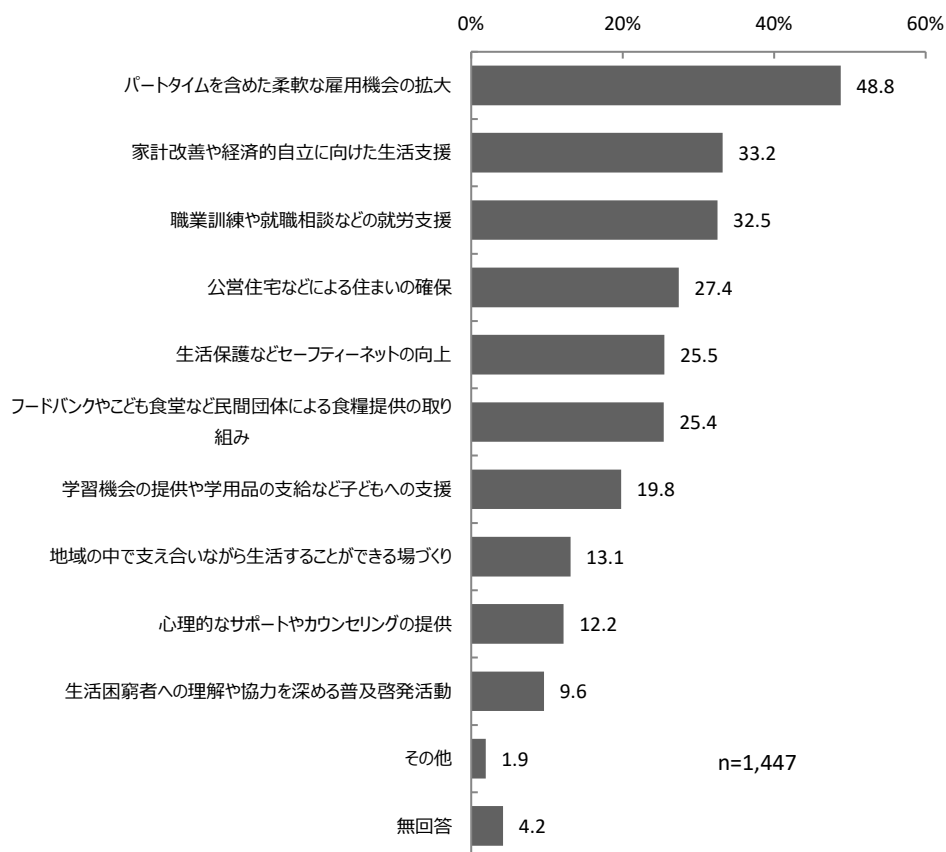
1年前と比べた現在の生活状況について、「苦しくなった」（36.4%）と回答した割合が、「楽になった」（4.8%）を大幅に上回っており、1年前よりも生活が苦しいと感じている人が多くなっている。本問は、県民の暮らし向きを今と1年前で比較するために新設した。「変わらない」が約5割で最も高くなったが、「苦しくなった」が約3割と、1年前よりも苦しくなった人の方が多いことが分かる。

また、年齢別で見ると、どの世代も「苦しくなった」と回答した割合は3割前後であるものの、40代が「苦しくなった」と回答した割合が約4割と最も高くなっており、「今」及び「1年前との比較」の両方において、40代が特に生活の苦しさを感じていることが分かる。

(3) 生活困窮

【今回の調査結果】

問 2 7 収入が少ない方、働きたくても働けない事情がある方、病気や障害のある方、高齢の方など、さまざまな理由で毎日の生活に余裕がなく困っている家庭が少なくありません。こうした生活困窮世帯の現状から、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から 3つまで選んでください。



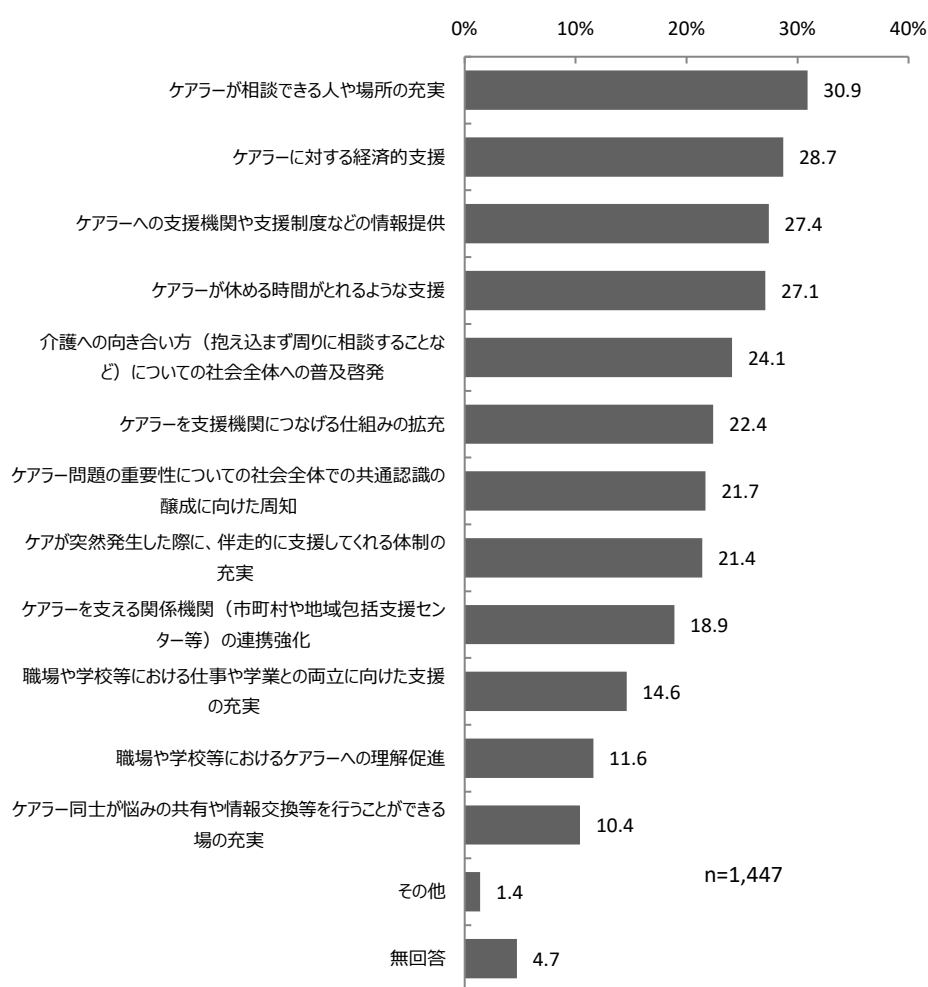
生活困窮世帯の現状に対し必要なことについては、「パートタイムを含めた柔軟な雇用機会の拡大」(48.8%)の回答率が突出して高く、次いで「家計改善や経済的自立に向けた生活支援」(33.2%)、「職業訓練や就職相談などの就労支援」(32.5%)と続いている。

本問は、さまざまな理由で毎日の生活に余裕がなく困っている家庭が少なくないことから、生活困窮世帯の現状から必要なことを把握するために新設した。いずれの属性別でも「パートタイムを含めた柔軟な雇用機会の拡大」を重視しているが、高齢になるほど生活保護などのセーフティーネットや生活困窮者への理解や普及啓発、地域の中で支え合いながら生活することができる場づくりにおけるニーズが高まっていく結果となっている。

(4) ケアラー問題

【今回の調査結果】

問 2 8 2025 年に団塊の世代の皆様が 75 歳以上になられることに伴い、介護が必要となる方が増えるとともに、介護等を行う側、ケアラー（学校に通いながら家事や家族の介護などを日常的に行っている子どもでもある「ヤングケアラー」、子育てと介護を同時に抱える「ダブルケアラー」、仕事をしながら家族の介護を担う「ビジネスケアラー」など）の増加が見込まれます。学び世代の子ども・若者や子育て世代の介護負担軽減、働く世代の介護離職等を防ぐために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から 3 つまで選んでください。



ケアラー問題対策のためにどのようなことが必要かについては、「ケアラーが相談できる人や場所の充実」(30.9%)の回答率が最も高く、次いで「ケアラーに対する経済的支援」

(28.7%)、「ケアラーへの支援機関や支援制度などの情報提供」(27.4%)と続いている。

本問は、今後介護を行う側であるケアラーの増加が見込まれている背景から、子ども・若者や子育て世代の介護負担軽減、働く世代の介護離職防止等を図るために必要なことを把握するために新設した。属性ごとに回答にばらつきはあったが、年齢が高くなるにつれて介護への向き合い方についての社会全体への普及啓発の回答率が高くなるほか、20代まではケアラーが休める時間がとれるような支援、30～40代はケアラーに対する経済的支援、50代以上はケアラーが相談できる人や場所の充実が必要だと回答した人が多く、年代によって違いがあることが分かる。

令和7年度（2025年度）実施 県民意識調査報告書 概要版

令和8年3月

山梨県高度政策推進局政策調整グループ

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1553 / FAX 055-223-1776

公益財団法人山梨総合研究所

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内一丁目8-1-1

TEL 055-221-1020 / FAX 055-221-1050